日本型排外主義—在特会・外国人参政権・東アジア地政学

論文要約

樋口直人

２０１５年12月

１．目次

プロローグ
序章　日本型排外主義をめぐる問い
　１　排外主義運動の勃興
　２　誰が排外主義運動に馳せ参じるのか
　３　なぜ排外主義運動に馳せ参じるのか
　４　在日コリアンと「在日特権」をめぐる問い
　５　「通常の病理」から「病理的な通常」へ——事態の解明に向けて
第一章　誰がなぜ極右を支持するのか——支持者像と支持の論理
　１　西欧における極右研究の蓄積
　２　なぜ極右は発生するのか——先行研究の整理
　３　誰がなぜ極右を支持するのか——経験的研究による検証
　４　極右政党研究の「ノーマル化」とその先へ
第二章　不満・不安で排外主義運動を説明できるのか
　１　社会運動研究における不満・不安の位置づけ
　２　大衆社会論と排外主義運動
　３　競合論と排外主義運動
　４　代替的な説明図式
　５　排外主義運動のリアルな把握に向けて
第三章　活動家の政治的社会化とイデオロギー形成
　１　活動家の多様性とミクロ動員過程
　２　イデオロギーと政治的社会化——緩やかな説明変数と被説明変数
　３　政治的社会化の過程
　４　排外主義を受容する土壌
第四章　排外主義運動への誘引——なぜ「在日特権」フレームに共鳴するのか
　１　構築される不満——問題の所在
　２　運動と個人のフレーム調整
　３　活動家の語りにみるフレーム調整過程
　４　「在日特権」フレームの共鳴板
　５　排外主義運動との運命の出会い
第五章　インターネットと資源動員——なぜ在特会は動員に成功したのか

１　インターネットと排外主義運動
２　インターネットと動員構造の変容
３　排外主義運動へのミクロ動員過程
４　資源動員をめぐる後発効果
第六章　排外主義と政治――右派論壇の変容と排外主義運動との連続性をめぐって
１　ミクロ動員から政治的機会構造へ
２　言説の機会構造――分析視点
３　言説の機会構造と排外主義運動の関連
４　ネットカルチャーと排外主義運動
５　右派論壇の鬼子としての排外主義運動
第七章　国を滅ぼす参政権？――外国人参政権問題の安全保障化
１　外国人参政権問題をめぐる日本的特殊性――問題の所在
２　デニズンの権利と安全保障化をめぐる日本的特質
３　外国人参政権問題の日本的展開
４　外国人参政権をめぐる脱安全保障化
第八章　東アジア地政学と日本型排外主義――なぜ在日コリアンが標的となるのか
１　東アジア地政学と在日コリアン――問題の所在
２　分析枠組み――民族化国家としての戦後日本
３　2 者関係によって何が進むのか――在日コリアンの変遷と地方市民権
４　本質主義と外国人排斥の正当化
終章　日本型排外主義とは何か――欧州との比較で考える
１　日欧比較から日本型排外主義を論じる
２　領域ごとにみる排外主義の特質
３　まとめ
エピローグ
補論　日本政治のなかの極右
補遺　調査とデータについて
あとがきと謝辞、そして若干の後日談
文献一覧
資料　排外主義運動の活動家に対する聞き取り記録

２．問題設定

本論文では、排外主義運動のなかで最大の組織たる在日特権を許さない市民の会（在特会）について、動員のメカニズムと拡大の背景を分析する。日本の排外主義運動には、既成右翼の一部、歴史修正主義的な右派市民運動、ネット右翼という 3 つの源流がある。現在の排外主義運動は「右翼崩れ」からノウハウを、歴史修正主義から係争課題を、インターネットからネット右翼という動員ポテンシャル（運動の支持層）を得てきた。

だが、そもそも在特会はなぜ急激に勢力を拡大しえたのか。排外主義運動の動員をめぐる「わからなさ」は、当事者のみならず観察者・分析者にとっても同様であり、それだけに憶測や予断にもとづく解釈が跡を絶たない。日本の排外主義運動をめぐっては、運動をめぐる

基本的な問い――誰が／なぜ／いつ／何を／いかにして、動員／支持／敵視するのか――は、ほとんどが明らかにされていない。現象を理解するには、紋切り型の解釈で思考停止するのではなく、適切な問いを提示してそれに答える必要がある。

ネット右翼が話題となる時、決まってある種のステレオタイプがついてまわる。すなわち、社会の縁辺で満たされない生活を送り、疎外感や不遇感に満たされた者がいる。日本で排外主義的な言説がインターネットを覆うに至った 2000 年代は、日本の経済的なプレゼンスが低下し、非正規雇用の増加や格差・貧困が問題化された時期でもある。社会的排除を蒙る者が程度としても人数としても増加し、それに対する認知が高まるなかで、排除された者がはけ口を求めるという説は実感に沿っている。それだけに、排外主義運動の発生と拡大を不満・不安と階層で説明しようという思考が強固に根を張ってきた。

だが、外国における極右政党の支持基盤は、不満・不安と階層で説明できるほど単純ではない。正確にいうと、そうした単純な支持者像は経験的研究の蓄積により、大幅な修正を余儀なくされてきた。実際、排外主義運動の担い手の社会経済的な状況には多様性がある（第 2 章参照）。

では、そうした多様性を持った者がなぜ活動家になっていくのか。「なぜ参加するのか」を解明するうえで、運動参加者の政治的イデオロギーは重要な要素である。排外主義運動は、他の国との比較でいえば紛れもなく極右の範疇に入る。だが、こうしたイデオロギー的背景は先行研究では不当に軽く扱われてきた。排外主義運動が政治運動である以上、活動家のイデオロギー的背景は、「なぜ排外主義運動に参加するのか」を解明する上で不可欠な要素だろう。

本論文では、運動参加に加えて運動の標的についても解明を試みる。すなわち、なぜ今になって在日コリアンの排斥が叫ばれるのか。排外主義は世界的に広くみられる現象であり、北米や西欧のような大規模な移民受入国では研究蓄積も相当な量にのぼる。そうした先行研究は第 1 章で整理するが、そこで得られた知見をもってしても、日本でみられる特徴の 1 つ――長い居住の歴史を持つ在日コリアンが排斥の対象になる理由を十分説明できない（第 2 章参照）。第 8 章で詳述するが、排外主義運動の標的になったのはニューカマー外国人ではなく、他の国ならば標的になる可能性がきわめて低い在日コリアンであった。

この問いを説明するに際して、2 つの水準で議論する。第 1 に個人レベルについては、「在日特権」なるフレーム（解釈図式――第 4 章参照）を活動家たちが受容する過程とその基盤を可能な限り詳細に分析する。ここでいう過程とは、幼少からの政治的関心やイデオロギーの形成を含む長期的なものであり、排外主義のイデオロギー的な基盤が検討対象となる。具体的には、「在日特権」との邂逅に先立って、どのような受容の素地があったのかをまず考察したい（第 3 章）。そのうえで、活動家たちのイデオロギーと「在日特権」フレームが共鳴し、それを受容する過程を分析する（第 4 章）。さらに、活動家が「在日特権」と出会う過程ではインターネットが決定的な役割を果たしており、第 5 章ではインターネットを通じた勧誘のメカニズムを明らかにしたい。

第 2 に、社会レベルでは「在日特権」なるフレームが生み出される背景を分析する。「在日特権」という言葉が生まれる背後にはある種の政治状況が存在しており、「在日特権」なる枝葉よりもむしろ、その根幹となるより包括的なイデオロギーをみる必要がある。そのため、まずは既成保守勢力と排外主義運動の関係を明らかにする必要がある（第 6 章）。次に

外国人参政権の事例に即して、「外国人問題」と「東アジア地政学」がどのように関連するのかを議論する（第 7 章）。ここに至って、ようやく在日コリアンが排斥の標的となる要因を解明できる（第 8 章）。在日コリアンは、「定住外国人」としてさまざまな権利を獲得してきたが、一方で「過去の国民＝旧植民地出身者」（樋口、2001）としても処遇されてきた。「過去の国民」に対する配慮は、一方で政策を推進する要因ともなってきたが、第 6 章でみた保守にとっての仮想敵の変化が影を落とすようになった。すなわち、植民地清算が未だにできておらず、現職の首相が歴史修正主義に肩入れする日本において、旧植民地出身者は近隣諸国との対立に巻き込まれる。外国人参政権と同様に、排外主義運動が在日コリアンに対してみているのは、その生身の姿ではなく「本国」の幻影である。

３．調査とデータについて

・活動家に対する聞き取りデータ

2011 年 2 月から 2012 年 10 月にかけて、排外主義運動の活動家 34 名に対して聞き取りを行った。対象者のうち 25 名は在特会を主な活動の場としており（していた者も含む）、残りの 9 名はそれ以外の団体を主な活動の場としている。

・外国人参政権に関する聞き取り調査

2010 年 5 月から 2013 年 4 月の間に、外国人参政権の法制化について 19 名に対して 21 件の聞き取りを行った。鳩山由紀夫・元首相と冬柴鐵三・元衆議院議員（故人）以外は、匿名という条件で調査に応じていただいており、内訳は以下の通り。国会議員（民主＝9、公明＝2、自民＝1、社民＝1、たちあがれ日本＝1）、国会議員秘書（民主＝1）、各種団体＝6 名。

・沖縄・八重山地区調査

松谷満氏との共同調査による。2012 年 11 月と 2013 年 3 月、2014 年 2 月、2015 年 2～3 月に、石垣市、与那国町、竹富町における教科書採択と自衛隊基地建設に関して、28 件の聞き取り調査を実施した。首長＝3、国会議員＝1、市町議会議員＝8、市町職員＝3、関係団体＝14 名。

・右派論壇誌データ

これは既成保守の言説をみるためのデータであり、右派論壇の関心や敵手の推移を明らかにすることを目的としている。データ作成に際しては、『文藝春秋』『中央公論』といったメジャーな保守論壇誌ではなく、『諸君！』『正論』を対象とした。「極右」研究に際しては、主流派保守より「右」にある言説を扱う必要があると考えたことによる。ただし、『諸君！』は 2009 年に廃刊しているため、2009 年 1 月からは『WiLL』で代用した。

・在特会等による抗議イベントデータ

在特会前会長の桜井誠のブログをもとにイベントデータを作成した。桜井のブログは、在特会の結成当初からのイベントが網羅されているし、関連するイベントの案内がリンク付きで掲載されているため、コーディングに必要な情報も集められる。こうして収集した、2007～12 年に行われた抗議イベントは 1006 件である。それぞれについて、「年月」「発生場所」「イシュー」「標的（抗議が直接向けられる対象）」「行為形態」をコーディングして入力した。

４．知見の要約――欧州との比較で考える

（１）日欧比較から日本型排外主義を論じる

これまでの議論を踏まえて、本論文の題名である「日本型排外主義」について論じることとしたい。本論文は、日本にも欧州のようなナショナリズムと排外主義を前面に掲げる、極右と呼ぶべき勢力が出現したことを、議論の前提としている。旧来型の右翼とは区別される新しい性格を持つとされる点でも、日本と欧州で現出した事象は共通している。そうであるがゆえに、西欧における初期の極右研究でみられたの同じ説明要因――社会変動に伴う社会解体と不安・不満の増大――が日本でも使われたのだといえる。

しかし、そうした排外主義があらわれる仕方は欧州と同じではない。筆者自身は、社会変動と日本型排外主義が無関係だとまで主張するつもりはない。しかし、それは日本の排外主義の出現を説明するうえで、周辺的な位置づけしか与えられないと考える。では、その特徴をどのように要約することができるのか。以下では、主に参照してきた西欧との理念型的な比較により、日本型排外主義の特質をまとめていく。

（２） 領域ごとにみる排外主義の特質

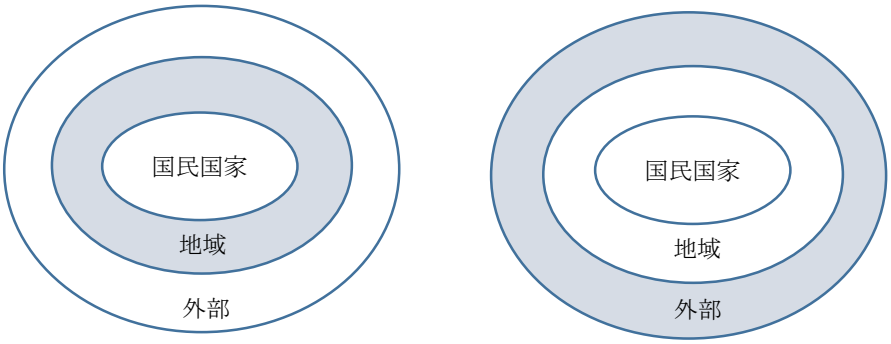
・標的

日本の排外主義にとっての「敵」は単一ではない。筆者もインタビュー対象者から、あなたのような輩が「真の敵であり支那朝鮮は二の次である」ことに気付いた点で有益だったというメールをもらったこともある。とはいえ、日本の排外主義が圧倒的に主たる標的としているのが、中国、韓国、北朝鮮および在日コリアンであることは間違いない。序章でもふれたように、在特会が勢力を伸ばすきっかけの1つとなったのは、非正規滞在のフィリピン人一家に対する嫌がらせデモだった。だが、第6章でみたように「移民一般」に対する排外主義勢力の関心が高いとはいえない。これは、日本で移民受入れが政治的なイシューになっていないこともあるが、仮に政治的な争点になったとしても近隣諸国が過度に取り上げられることになるだろう。

つまり日本の排外主義は、図1の三重の同心円のうち真ん中の層である東アジア地域を、主たる標的としている。これまで何度も述べてきたように、在日外国人は「内なる近隣諸国」とみなされることにより、排斥の対象となっていく。それに対して、同心円の外側にある東アジア地域外のことがらに対しては、基本的に関心が薄い。これは排外主義運動だけでなく、冷戦後の右派論壇の特質であることは第6章で論じたとおりである。在日外国人のなかでも、ニューカマーで国籍別人口の3、4位を占めるフィリピン人やブラジル人が、組織だった排外主義の標的となることはほとんどない。

それに対して、欧州で排斥感情が向けられるのは圧倒的に域外出身の移民である（Semynov et al. 2006）。もちろん、フランスの国民戦線は近年に至るまで反ユダヤ主義に固執していたし（Betz 2013）、東欧出身のロマに対する排斥の動きも根強いものがある（Mudde 2007）。また、反EUは極右にとって有力な旗印ともなっており、それが票の獲得にも結び付いている（Gómez-Reino and Llamazares 2013; Jamin 2013; McDonald 2006; Williams 2013）。欧州に対する懐疑的な態度には、道具的なもの（統合による利得の有無）と政治的なもの（国民主権の侵害）があり（Lubbers and Scheepers 2005）、極右もこうした論理を利用してきた。

だが、これは「怠惰で腐敗した」EUの官僚といった具合に、EUという政治体を批判するものであっても、欧州そのものや近隣諸国を憎悪しているわけではない。むしろ極右には汎欧州主義の理想があり（Bar-on 2008）、「欧州人」としての極右は欧州をアイデンティティのよりどころともしている（Mammone, Godin and Jenkins 2013）。これは、後述する文化的レイシズムの根拠にもなっており、欧州という地域自体を極右の敵手とはみなしえない。図終－1に示したように、欧州の外部とされる存在――端的には移民、とりわけムスリム移民――が主たる敵手となる。



日本型　　欧州型

図１　排斥の標的の相違

・経済

移民は経済的な競合相手となるとみなされるがゆえに、排斥の対象となるというのが競合論の基本的な問題設定だった。これは移民人口の比率や流入人口数を指標として測定されることが多いが、在日コリアンはこうした指標からすると排斥の標的にはなりにくい。韓国・朝鮮籍人口は 2006 年まで最大の国籍集団だったが、韓国・朝鮮籍の特別永住者数は 1991 年をピークとして減少し続けている。数世代にわたって居住しているため、流入が競合を高めるともみなしえない。人口学的には、いかなる観点からも競合が生じている集団とはみなしえない。少なくとも、職をめぐる競合を掲げて在日コリアンを排斥するような言説は、ないといってよいだろう。福祉ショーヴィニズムについては、第 2 章で述べたような生活保護をめぐる排斥の言説はある。だが、これは社会保障制度からの排除がもたらす過渡的な問題であり、人数自体も少ないことから競合が問題を生み出すと考えるのは誤りだろう。

競合論を適用するならば、むしろニューカマーに対して、とりわけ在日南米人や在日ベトナム人の排斥が予想されることとなる。これまでなされた意識調査の結果をみると、外国人人口の増加率が高かった地域やブルーカラー層において、外国人の増加に対する反対意見が多い（濱田、2011; 永吉、2012）。その意味で、経済的競合はニューカマーの増加と排外意識に関して、一定の説明力を持つ可能性がある。だが、現実の排斥行動はニューカマーと関係なく生じていることから、経済的競合で日本の排外主義を説明するのは無理がある。

それに対して、欧米において排外主義と経済的競合の関係を挙げる研究は多かった（Kitschelt 1995）。これは、第 1 章でもみたように、有権者の極右支持をみる上では必ずしも一環した説明力を持つわけでもない（Schneider 2008）。しかし、現実政治においては欧州諸国の極右政党が、移民は仕事を奪うから排斥されるべきというレトリックを多用してき

た経緯もある。日本よりは、経済的競合が排斥に際して使われるところはあるだろう。

・文化

第2章で述べたように、在日コリアンは文化的にみて高度に同化が進んだ集団といえるだろう。日本人と結婚する比率もきわめて高く、経済面においてよりも同化の程度は高いとみなしうる。日常生活における摩擦が「文化の違い」などとして語られるのは、在日コリアンではなく在日ブラジル人など南米系移民であることが圧倒的に多い（cf.梶田・丹野・樋口、2005）。つまり、文化的脅威を持ち出す客観的根拠は欠如しているし、在日コリアンの文化的な相違をもって排斥が行われるわけではない。文化的脅威を理由とするならば、標的は在日コリアンではなくニューカマーになるはずである。

それに対して、欧州の研究では文化的な競合（移民の文化に対する脅威認知）は、排外意識に対して安定的な説明力を持つ（第1章でふれた研究以外に、Schneider 2008も参照）。政治の水準でも、特に「西欧的価値と相いれないイスラーム」という文化的レイシズムの言説が広く使われている（Akkerman 2005; Hagelund 2003; Halikiopoulou et al. 2013; Pauwels 2014; Rostbøll 2010; Skenderovic 2007）。この場合も、第1項で述べたのと同様に「欧州の外部」にあるとされるムスリム系の住民が標的とされており、文化的同化の程度が高い欧州系の移民は憎悪の対象とならない。

・法と秩序

第7章で述べたように、特に犯罪との関連で論じられる移民排斥の感情は、日本では他の国より強い傾向がある。その意味で、「法と秩序」を大義名分とする排外主義が、日本では発生しやすいともいえるだろう。だが、そこで「犯罪を犯す外国人」として想定されているのは、在日コリアンではない。警察のいう「来日外国人」とはニューカマーを指しているし、週刊誌や漫画で取り上げられる「外国人犯罪」もニューカマーのそれに限られている。第7章で述べたように、在日コリアンと犯罪を結び付けて論じるような社会的風潮はないといってよいだろう。東アジアとの関連で唯一あるとすると、「中国人マフィア」が取り上げられる比率の高さだが、それが排外主義運動の標的となっているわけでもない。ここでも、図終－1にある同心円の外部にある存在としての外国人が標的となるはずの状況があるが、実際には在日コリアンに敵意が向けられている。

一方、欧州で「法と秩序」という観点から標的になるのは、圧倒的にEU域外の移民である（第7章参照）。まず、「ヨーロッパ要塞」に域外から流入する移民に対する規制の厳格化がある。加えて、移民と犯罪が問題化される時に標的となるのは、オランダならアンティル諸島系、フランスならマグレブ系の移民といった具合に、EU域外にルーツを持つ移民となる。主にルーマニア出身のロマも標的となるが、これもまたロマが「非欧州人」とみなされるがゆえのことと考えたほうがよい。

・国内政治

第2章では、在日コリアンは政治的に活発なマイノリティだったが、その活動は衰退傾向にあるとした。それでも、政治的な活動がほとんど存在しないニューカマーと比べれば、政治面で相対的に目立つ集団とはいいうる。しかし、日本の外国人人口比率は2%未満であり、

政治的に脅威となるという見方自体の根拠を疑った方がよいだろう。その意味で、第8章でふれた二者関係（日本国家－在日コリアン）という枠組みでは、政治的脅威を論じること自体に無理がある。

にもかかわらず、外国人参政権をめぐる議論では外国人がキャスティングボートを握り、政治的な影響力を行使するとまことしやかにささやかれてきた。外国人人口の低さ＝政治的影響力のなさを糊塗して脅威を喧伝するために、人口過疎の国境地帯での選挙が事例として持ち出される。しかも、外国人参政権を求めてきたのは民団であるが、反対派が持ち出す与那国町や名護市の選挙に介入するとされるのは、在日中国人であった。つまり、実際には発生しようがない脅威を喧伝するために、数字上の操作や無理な前提を導入してきたのが、日本的な外国人参政権反対論である。

一方、欧州での外国人・移民は政治的な脅威とはみなされていない。イスラームは文化的脅威とはされるものの、政治的にはむしろ活発な参加が統合をうながすものとみなされる（第7章参照）。外国人・移民をめぐる政治的な課題は、むしろ投票率の上昇など実質的な参加を通して市民的な政治文化を共有することにある。一見、外国人の政治参加という同じ問題を抱えているようにみえても、日本と欧州では問題の構築のされ方がまったく異なる。

・国際政治

第8章で述べたように、日本の排外主義は対外関係を増幅装置として発生している。外国人参政権の例を挙げれば、かなりの永住者を擁する在日フィリピン人や在日ブラジル人は、議論の埒外におかれてきた。これは、在日コリアンや在日中国人より人数が少ないからではなく、フィリピンやブラジルとの二国間関係に大きな問題がないことの反映にすぎない。つまり、在日フィリピン人や在日ブラジル人は、図2でいう「民族の祖国」の意を受けた行為者ではない一方で、在日コリアンや中国人は民族の祖国の代弁者とみなされる。前項で述べたように、在日コリアンは相対的に活発な政治的行為者といえるが、「祖国の代弁者」とされるのはそうした在日コリアン自身の性質によるのではない。「民族の祖国」との関係で生まれる困難が、日本をして民族化国家としての性格を強め、ナショナル・マイノリティの排斥を正当化するのである。

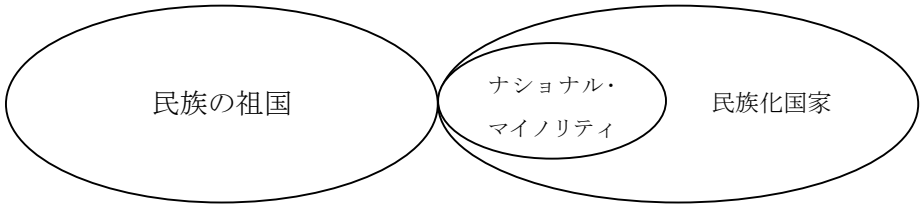


図 2　民族問題の三者関係モデル

欧州においても、対外関係が背景にある排外主義は存在する。前述のイスラモフォビアは、単に文化的脅威として喧伝されるだけでなく、外国で生じた戦争やテロと結び付けて増幅されてきた。実際、9.11同時多発テロの直後にはムスリム移民に対する感情温度だけ下がったという報告もある（Coenders et al. 2008）。極右政党は、イスラームに対する本質主義的

なラベリングにもとづき、欧州とムスリムは共存できないとしてきた。その意味では、「民族の祖国」と「ナショナル・マイノリティ」を同一視する日本の排外主義と共通する部分を持つ。ただし、イスラモフォビアを図2で説明することはできない。イスラモフォビアには、民族の祖国という政治体との関係悪化という背景がなく、国家間の関係が憎悪を増幅するような回路を持たないからである。

・歴史修正主義

第4章と第8章で述べたように、日本の排外主義は――強く言明するならば――歴史修正主義の一変種としての性格を持つ。在日コリアンに対する憎悪は、単なるレイシズムや日本型オリエンタリズムでは説明できない。それはたとえば在日フィリピン人に対して向けられる感情とは異なっており、前者にあって後者にない最大の要因は植民地主義の歴史である。在日コリアンは、ニューカマー韓国人とは異なり、存在自体が歴史的経緯によって規定される。一般永住とは異なる特別永住資格が設けられるのも、第8章でみたような「過去の国民」に対する処遇が必要なことによっていた。

これまでの項でみてきたもののうち、在日コリアン自身の特質からは排外主義が発生しにくいことを論じてきたが、歴史的経緯だけは例外と考えたほうがよい。すなわち、植民地主義の歴史と在日コリアンの存在が不可分である以上、植民地主義の歴史の否定は在日コリアンに対するまなざしの変化をもたらさないはずがない。在日コリアンが標的にされるようになった最大の要因は、歴史修正主義の台頭が在日外国人のうちもっぱら在日コリアンを標的とする帰結をもたらすからだと考えられる。

それに対して欧州で歴史修正主義といえば、通常はホロコースト否定論を指す（e.g. Mudde 2007）。イギリスやフランスのような植民地大国の場合、植民地主義の歴史と移民には密接な関係があり、移民の権利運動で歴史的経緯が強調される場合もある（稲葉、2011）。しかし、植民地主義に対する歴史修正主義が排外主義に結びつくわけではない。その意味で、現在の欧州における排外主義は歴史修正主義を背景にしているとはいえないだろう。

（３）まとめ

欧州と日本の排外主義には共通する点もある。政治的競合という観点から排外主義を説明できない点で、欧州と日本で違いはなかった。しかし、前節での検討を経てみると、次の3つの点で日欧にはかなりの相違があるとみたほうがよいだろう。

第1に、排斥の主たる標的となるのは、日本では東アジア域内にルーツを持つ移民であった。それに対して欧州の場合、EU域外にルーツを持つ移民がもっぱら排斥対象となる。漢字文化圏ということからも、実際の社会経済的地位からも、言語や婚姻のような同化を示す指標からしても、在日東アジア系移民は統合に成功した集団と国際的には評価されよう。これは、欧州におけるEU域内出身の移民と「客観的」には類似した状況にあるが、にもかかわらず排斥対象となっている。それに対して欧州では、統合の度合が相対的に低いとされる集団が、敵意を向けられ排外主義の標的となってきた。この相違を、換言すれば欧州と比べた日本の特性を説明する必要があり、それが第2、第3の点につながっていく。

第2に、排外主義を誘発する要素は共通しているようにみえるものの、そうした要素から予想されるのとは異なる対象が標的になっている。日本では、経済的競合、文化的競合、法

と秩序のいずれからも排斥の標的として理論的に予測されるのは、在日コリアンではなくニューカマーだった。そうした理論的予測を裏切る形で、在日コリアンが排外主義の標的となっていることは、経済、文化、法と秩序が説明変数になりえないことを示す。欧州の場合、上記3つの要素のいずれもがEU域外の移民の排斥を理論的に予測し、実際の結果もその通りになっている。

第3に、国際政治と歴史修正主義に目を転じると、第2点では説明できなかった日本の排外主義を明確に位置づけることができる。欧州でも、国際政治と歴史修正主義は排外主義と関連しているが、主たる説明要因とはいいがたい。それに対して、東アジアの近隣諸国との関係は、日本の排外主義を激化させる直接的な要因となってきた。多くの移民にとっての「民族の祖国」たる中国、韓国、北朝鮮と日本の間には、困難な外交課題が未解決のまま残っている。これが、社会経済的にみて劣位な状況にある在日フィリピン人や在日ブラジル人ではなく、在日コリアンや在日中国人が標的となる大きな背景となる。さらに、歴史修正主義は在日コリアンに対する排斥を説明する固有の要因であり、それなくして「なぜ在日コリアンが標的となるのか」という本論文を貫く問いに答えることはできない。

プロローグでふれたように、日本型排外主義とは近隣諸国との関係により規定される外国人排斥の動きを指し、植民地清算と冷戦に立脚するものである。直接の標的になるのは在日外国人だが、排斥感情の根底にあるのは外国人に対するネガティブなステレオタイプよりもむしろ、近隣諸国との歴史的関係となる。その意味で、外国人の増加や職をめぐる競合といった外国で排外主義を生み出す要因は、日本型排外主義の説明に際してさしたる重要性を持たない。

もちろん、西欧にも歴史修正主義にもとづくユダヤ人排斥は存在するし、日本にも2者関係にもとづくレイシズムは存在する。ここでいう日本型排外主義とは、日本に特徴的な要素の理念型である。これを概念化することで、排外主義を単なる不況や不安に還元するような見方から距離をとることができると考える。また、排外主義への対策のあり方という実践的課題に対しても、こうした理念型があればより適切な処方箋を提示することもできるだろう。

５　文献一覧

安倍晋三，2006,『美しい国へ』文藝春秋社.

Adams, Josh and Vincent J. Roscigno, 2005, “White Supremacists, Oppositional Culture and the World Wide Web,” *Social Forces,* 84(2): 759-778.

Adler, Marina A., 1996, “Xenophobia and Ethnoviolence in Contemporary Germany,” *Critical Sociology,* 22(1): 29-51.

Adorno, Theodor et al., 1950, *Authoritarian Personality*, Harper & Broパーソナリティthers.（＝1980，田中義久・矢沢修次郎・小林修一訳『権威主義的』青木書店．）

明戸隆浩，2013,「欧米のヘイトスピーチから日本の進む先を考える」『Journalism』282号.

Akkerman, Tjitske, 2005, “Anti-immigration Parties and the Defence of Liberal Values: The Exceptional Cases of the List Pim Fortuyn,” *Journal of Political Ideologies,* 10(3): 337-354.

――――― and Matthijs Rooduijn, forthcoming, “Pariahs of Partners? Inclusion and Exclusion of Radical Right Parties and the Effects on Their Policy Positions,” *Political Studies*.

Alexander, Jeffrey C. et al., 2004, *Cultural Trauma and Collective Identity,* Berkeley: University of California Press.

Allport, Gordon W., 1958, *The Nature of Prejudice,* Doubleday.（＝1962，原谷達夫・野村昭訳『偏見の心理』培風館．）

Andersen, Jørgen Goul, 1992, "Denmark: the Progress Party−Populist Neo-Liberalism and Welfare State Chauvinism," Paul Hainsworth ed., *The Extreme Right in Europe and the USA*, London: Pinter.

Andersson, Christoph, 2013, "Dealing with the Extreme Right," Ruth Wodak, Majid KhosraviNik and Brigitte Mral eds., *Right-wing Populism in Europe: Politics and Discourse,* London: Bloomsbury.

Andreas, Peter, 2000, *Border Games: Policing the U.S.-Mexico Divide,* Ithaca: Cornell University Press.

――――― and Timothy Snyder, 2000, *The Wall around the West: State Borders and Immigration Controls in North America and Europe*, Lanham: Rowman & Littlefield.

――――― and Thomas J. Biersteker eds., 2003, *The Rebordering of North America: Integration and Exclusion in a New Security Context,* New York: Routledge.

青木理・梓澤和幸・河﨑健一郎編，2011，『国家と情報――警視庁公安部「イスラム捜査」流出資料を読む』現代書館.

蘭信三編，2011，『帝国崩壊とひとの再移動――引揚げ、送還、そして残留』勉誠出版.

新崎盛暉，2012，「沖縄は、東アジアにおける平和の『触媒』となりうるか」『現代思想』40巻17号.

Arendt, Hannah, 1951, *The Origins of Totalitarianism,* Harcourt, Brace & World.（＝1972a，大久保和郎訳『全体主義の起原 1――反ユダヤ主義』、1972b，大島通義・大島かおり訳『全体主義の起原 2――帝国主義』、1974，大久保和郎・大島かおり訳『全体主義の起原 3――全体主義』みすず書房.）

有田芳生，2013，『ヘイトスピーチとたたかう！――日本版排外主義批判』岩波書店.

――――・北原みのり・山下英愛，2014，「私たちの社会は何を『憎悪』しているのか――『差別の扇動』と闘う覚悟と希望」『世界』862 号.

Art, David, 2006, *The Politics of the Nazi Past in Germany and Austria,* Cambridge: Cambridge University Press.

――――, 2011, *Inside the Radical Right: The Development of Anti-Immigrant Parties in Western Europe,* Cambridge: Cambridge University Press.

Arzheimer, Kai, 2009, "Contextual Factors and the Extreme Right Vote in Western Europe, 1980-2002," *American Journal of Political Science,* 53(2): 259-275.

――――, 2012, "Working-Class Parties 2.0? Competition between Centre-Left and Extreme Right Parties," Jens Rydgren ed., *Class Politics and the Radical Right,* London: Routledge.

――――― and Elizabeth Carter, 2006, "Political Opportunity Structures and Right-Wing Extremist Party Success," *European Journal of Political Research*, 45: 419-43.

浅井春夫ほか，2006，『ジェンダー／セクシュアリティの教育を創る――バッシングを超える知の経験』明石書店.

Atkinson, Graeme, 1993, "Germany: Nationalism, Nazism and Violence," Tore Björgo and Rob Witte

eds., *Racist Violence in Europe,* New York: St. Martin's Press.
鮎川潤，2001，『少年犯罪――ほんとうに多発化・凶悪化しているのか』平凡社.
Back, Les, 2002, "Aryans Reading Adorno: Cyber-Culture and Twenty-First-Century Racism," *Ethnic and Racial Studies,* 25(4): 628-651.
Backes, Uwe and Cas Mudde, 2000, "Germany: Extremism without Successful Parties," *Parliamentary Affairs,* 53: 457-468.
Balazs, Gabrielle, Jean-Pierre Faguer and Pierre Rimbert, 2007, "Widespread Competition and Political Conversions," Jörg Flecker ed., *Changing Working Life and the Appeal of the Extreme Right*, Aldershot: Ashgate.
Bale, Tim, 2003, "Cinderella and Her Ugly Sisters: The Mainstream and Extreme Right in Europe's Bipolarising Party Systems," *West European Politics,* 26(3): 67-90.
―――― et al., 2010, "If You Can't Beat Them, Join Them? Explaining Social Democratic Responses to the Challenge from the Populist Radical Right in Western Europe," *Political Studies*, 38: 410-426.
Balzacq, Thierry, 2010, "Constructivism and Securitization Studies," Myriam Dunn Cavelty and Victor Mauer eds., *The Routledge Handbook of Security Studies,* London: Routledge.
――――, 2011, "A Theory of Securitization: Origins, Core Assumptions, and Variants," Thierry Balzacq ed., *Securitization Theory: How Security Problems Emerge and Dissolve,* London: Routledge.
Bar-On, Tamir, 2008, "Fascism to Nouvelle Droite: The Dream of Pan-European Empire," *Journal of Contemporary European Studies*, 16(3): 327-345.
Beauregard, Robert A. and Anna Bounds, 2000, "Urban Citizenship," Engin F. Isin ed., *Democracy, Citizenship and the Global City*, London: Routledge.
Beck, Ulrich, 2000, "Risk Society Revisited: Theory, Politics and Research Programmes," Barbara Adam, Ulrich Beck and Joost Van Loon eds., *The Risk Society and Beyond: Critical Issues for Social Theory,* London: Sage.
――――, 2005, *Power in the Global Age: A New Global Political Economy,* Cambridge: Polity Press.
Benford, Robert. D., 1993a, "Frame Disputes within the Nuclear Disarmament Movement," *Social Forces,* 71: 677-701.
――――, 1993b, "'You Could Be the Hundredth Monkey': Collective Action Frames and Vocabularies of Motive within the Nuclear Disarmament Movement," *Sociological Quarterly,* 34(2): 195-216.
――――, 1997, "An Insider's Critique of the Social Movement Framing Perspective," *Sociological Inquiry*, 67(4): 409-430.
―――― and David A. Snow, 2000, "Framing Processes and Social Movements: An Overview and Assessment," *Annual Review of Sociology,* 26: 611-39.
Benhabib, Seyla, 2004, *The Rights of Others: Aliens, Residents, and Citizens,* Cambridge University Press.（＝2006，向山恭一訳『他者の権利――外国人・居留民・市民』法政大学出版局.）
Bennett, W. Lance, 2005, "Social Movements beyond Borders: Understanding Two Eras of Transnational Activism," Donatella della Porta and Sidney Tarrow eds., *Transnational Protest &*

Global Activism, Lanham: Rowman & Littlefield.
———— and Alexandra Segerberg, 2012, "The Logic of Connective Action: Digital Media and the Personalization of Contentious Politics," *Information, Communication & Society,* 15(5): 739-768.
Berezin, Mabel, 2007, "Revisiting the French National Front: The Ontology of a Political Mood," *Journal of Contemporary Ethnography,* 36(2): 129-146.
————, 2009, *Illiberal Politics in Neoliberal Times: Culture, Security and Populism in the New Europe*, Cambridge: Cambride University Press.
Berg, Johannes and Tor Bjørklund, 2011, "The Revival of Group Voting: Explaining the Voting Preferences of Immigrants in Norway," *Political Studies,* 59: 308-327.
Berger, Maria, Christian Galonska and Ruud Koopmans, 2004, "Political Integration by a Detour? Ethnic Communities and Social Capital of Migrants in Berlin," *Journal of Ethnic and Migration Studies*, 30: 491-507.
Berger, Peter and Thomas Luckmann, 1966, *The Social Construction of Reality: A Treatise in the Sociology of Knowledge*, Doubleday.（＝1977，山口節郎訳『日常世界の構成――アイデンティティと社会の弁証法』新曜社.）
別冊宝島編集部編，2005，『マンガ嫌韓流の真実！〈韓国／半島タブー〉超入門』宝島社.
————，2006a，『嫌韓流の真実！ザ・在日特権』宝島社.
————，2006b，『嫌韓流の真実！場外乱闘編』宝島社.
————，2008，『ネット右翼ってどんなやつ？』宝島社.
————，2010，『"外国人参政権"で日本がなくなる日』宝島社.
Betz, Hans-Georg, 1990, "Politics of Resentment: Right-Wing Radicalism in West Germany," *Comparative Politics,* 23: 45-60.
————, 1994*, Radical Right-Wing Populism in Western Europe*, New York: St. Martin's Press.
————, 2002, "The Divergent Paths of the FPÖ and the Lega Nord," Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe*, London: Palgrave.
————, 2013, "Mosques, Minarets, Burqas and Other Essential Threats: The Populist Right's Campaign against Islam in Western Europe," Ruth Wodak, Majid KhosraviNik and Brigitte Mral eds., *Right-wing Populism in Europe: Politics and Discourse,* London: Bloomsbury.
———— and Stefan Immerfall, 1998, "Introduction," Hans-Georg Betz and Stefan Immerfall eds., *The New Politics of the Right: Neo-Populist Parties and Movements in Established Democracies,* New York: St. Martin's Press.
Bevington, Douglas and Chris Dixon, 2005, "Movement-Relevant Theory: Rethinking Social Movement Scholarship and Activism," *Social Movement Studies,* 4(3): 185-208.
Biggs, Michael and Steven Knauss, 2012, "Explaining Membership of the British National Party: A Multilevel Analysis of Contact and Threat," *European Sociological Review*, 28(5): 633-646.
Bigo, Didier, 2001, "Migration and Security," Christian Joppke and Virginia Guiraudon eds., *Controlling a New Migration World,* London: Routledge.
————, 2005, "From Foreigners to 'Abnormal Aliens': How the Faces of the Enemy Have Changed Following September the 11th," Elspeth Guild and Joanne van Selm eds., *International Migration*

and Security: Opportunities and Challenges, London: Routledge.

Billiet, Jaak B., 1995, "Church Involvement, Ethnocentrism, and Voting for a Radical Right-Wing Party: Diverging Behavioral Outcomes of Equal Attitudinal Dispositions," *Sociology of Religion*, 56: 303-326.

――――― and Hans de Witte, 1995, "Attitudinal Dispositions to Vote for a 'New' Extreme Right-Wing Party: The Case of 'Vlaams Blok'," *European Journal of Political Research,* 27: 181-202.

Bimber, Bruce, Andrew J. Flanagan and Cynthia Stohl, 2005, "Reconceptualizing Collective Action in the Contemporary Media Environment," *Communication Theory,* 54: 365-388.

Bird, Karen, Thomas Saalfeld and Andreas M. Wüst eds., 2011, *The Political Representation of Immigrants and Minorities: Voters, Parties and Parliaments in Liberal Democracies*, London: Routledge.

Björgo, Tore and Rob Witte eds., 1993, *Racist Violence in Europe*, New York: St. Martin's Press.

Bjørgo, Tore, 1998, "Entry, Bridge-Burning and Exit Options: What Happens to Young People Who Join Racist Groups—and Want to Leave?" Jeffrey Kaplan and Tore Bjørgo eds., *Nation and Race: The Developing Euro-American Racist Subculture,* Boston: Northeastern University Press.

Bjørklund, Tor and Jørgen Goul Andersen, 2002, "Anti-Immigration Parties in Denmark and Norway: The Progress Parties and the Danish People's Party," Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe*, London: Palgrave.

Blazak, Randy, 2001, "White Boys to Terrorist Men: Target Recruitment of Nazi Skinheads," *American Behavioral Scientist*, 44: 982-1000.

Blee, Kathleen M., 1996, "Becoming a Racist: Woman in Contemporary Ku Klux Klan and Neo-Nazi Groups," *Gender and Society*, 10(6): 680-702.

――――, 2002, *Inside Organized Racism: Women in the Hate Movement,* Berkeley: University of California Press.

――――, 2003, "Studying the Enemy," Barry Glassner and Rosanna Hertz eds., *Our Studies, Ourselves: Sociologists' Lives and Work*, New York: Oxford University Press.

――――, 2007, "Ethnographies of the Far Right," *Journal of Contemporary Ethnography*, 36(2): 119-128.

――――― and Verta Taylor, 2002, "Semi-Structured Interviewing in Social Movement Research," Bert Klandermans and Suzanne Staggenborg eds., *Methods of Social Movement Research,* Minneapolis: University of Minnesota Press.

――――― and Kimberley A. Creasap, 2010, "Conservative and Radical-Right Movements," *Annual Review of Sociology,* 36: 269-286.

――――― and Annette Linden, 2012, "Women in Extreme Right Parties and Movements: A Comparison of the Netherlands and the United States," Kathleen M. Blee and Sandra McGee Deutsch eds., *Women of the Right: Comparisons and Interplay across Borders*, University Park: Pennsylvania State University Press.

Bleich, Erik, 2011, *The Freedom to Be Racist? How the United States and Europe Struggle to Preserve Freedom and Combat Racism,* Oxford University Press.（＝2014，明戸隆浩ほか訳『ヘイトス

ピーチ――表現の自由はどこまで認められるか』明石書店.）
Bonacich, Edna, 1972, “A Theory of Ethnic Antagonism: Split Labor Market,” *American Sociological Review,* 37: 547-59.
――――, 1973, “A Theory of Middleman Minorities,” *American Sociological Review,* 38: 583-594.
―――― and John Modell, 1980, *Economic Basis of Ethnic Solidarity: Small Business in the Japanese American Community*, Berkeley: University of California Press.
Bornschier, Simon and Hanspeter Kriesi, 2012, “The Populist Right, the Working Class, and the Changing Face of Class Politics,” Jens Rydgren ed., *Class Politics and the Radical Right,* London: Routledge.
Borusiak, Liubov, 2009, “Soccer as a Catalyst of Patriotism,” *Sociological Research,* 48(4): 57-81.
Bowman-Grieve, Lorraine, 2009, “Exploring “Stormfront”: A Virtual Community of the Radical Right,” *Studies in Conflict & Terrorism*, 32: 989-1007.
Bowyer, Benjamin, 2008, “Local Context and Extreme Right Support in England: The British National Party in the 2002 and 2003 Local Elections,” *Electoral Studies*, 27: 611-620.
Brand, Karl-Werner, 1990, “Cyclical Aspects of New Social Movements: Waves of Cultural Criticism and Mobilization Cycles of New Middle-Class Radicalism,” Russel Dalton and Manfred Kuechler eds., *Challenging the Political Order: New Social and Political Movements in Western Democracies*, London: Polity Press.
Braungart, Richart G. and Margaret M. Braungart, 1986, “Life-Course and Generational Politics,” *Annual Review of Sociology*, 12: 205-231.
Braunthal, Gerard, 2009, *Right-Wing Extremism in Contemporary Germany,* London: Palgrave Macmillan.
――――, 2010, “Right-Extremism in Germany: Recruitment of New Members,” *German Politics and Society*, 28(4): 41-68.
Breton, Albert, Gianluigi Galeotti, Pierre Salmon and Ronald Wintrobe eds., 2002, *Political Extremism and Rationality*, Cambridge: Cambridge University Press.
Brubaker, Rogers, 1996, *Nationalism Reframed: Nationhood and the National Question in the New Europe,* New York: Cambridge University Press.
――――, 1998, “Migrations of Ethnic Unmixing in the ‘New Europe’,” *International Migration Review*, 32: 1047-1065.
――――, 2011, “Nationalizing States Revisited: Projects and Processes of Nationalization in Post-Soviet States,” *Ethnic and Racial Studies,* 34(11): 1785-1814.
―――― ed., 1989, *Immigration and the Politics of Citizenship in Europe and North America*, Lanham: University Press of America.
Brustein, William, 1996, *The Logic of Evil: The Social Origins of the Nazi Party, 1925-1933,* New Haven: Yale University Press.
Buckley, Sandra, 2000, “Japan and East Asia,” Henry Schwarz and Sangeeta Ray eds., *A Companion to Postcolonial Studies,* Oxford: Blackwell.
Buechler, Steven M., 2004, “The Strange Career of Strain and Breakdown Theories,” David A. Snow, Sarah A. Soule and Hanspeter Kriesi eds., *The Blackwell Companion to Social Movements*,

Oxford: Blackwell.
Burris, Val, Emery Smith and Ann Strahm, 2000, “White Supremacist Network on the Internet,” *Sociological Focus,* 33(2): 215-234.
Buzan, Barry, 1991, *People, States, and Fear: An Agenda for International Security Studies in the Post-Cold War Era*, second ed., Boulder: Lynne Rienner.
————, Ole Wæver and Jaap de Wilde, 1998, *Security: A New Framework for Analysis,* Boulder: Lynne Rienner.
Caiani, Manuela and Linda Parenti, 2009, “The Dark Side of the Web: Italian Right-Wing Extremist Groups and the Internet,” *South European Society and Politics,* 14(3): 273–294.
————, 2013, *European and American Extreme Right Groups and the Internet,* Aldershot: Ashgate.
Caiani, Manuela, Donatella della Porta and Claudius Wagemann, 2012, *Mobilizing on the Extreme Right: Germany, Italy, and the United States*, Oxford: Oxford University Press.
Campbell, David, 1992, *Writing Security: United States Foreign Policy and the Politics of Identity,* revised edition, Minneapolis: University of Minnesota Press.
————, 1998, *National Deconstruction: Violence, Identity, and Justice in Bosnia,* Minneapolis: University of Minnesota Press.
Caren, Neal, Kay Jowers and Sarah Gaby, 2012, “A Social Movement Online Community: Stormfront and the White Nationalist Movement,” *Research in Social Movements, Conflicts and Change*, 33: 163-193.
Carter, Elisabeth L., 2005, *The Extreme Right in Western Europe: Success of Failure?* Manchester: Manchester University Press.
Carty, Victoria and Jake Onyett, 2006, “Protest, Cyberactivism and New Social Movements: The Reemergence of the Peace Movement Post 9/11,” *Social Movement Studies,* 5(3): 229-249.
Carvalho, João, 2014, *Impact of Extreme Right Parties on Immigration Policy: Comparing Britain, France and Italy,* London: Routledge.
Castells, Manuel, 2001, *The Internet Galaxy: Reflections on the Internet, Business, and Society,* Oxford University Press.（＝2009，矢澤修次郎・小山花子訳『インターネットの銀河系――ネット時代のビジネスと社会』東信堂.）
Catellani, Patrizia and Patrizia Milesi, 2007, “The Psychological Routes to Right-Wing Extremism: How Italian Workers Cope with Change,” Jörg Flecker ed., *Changing Working Life and the Appeal of the Extreme Right*, Aldershot: Ashgate.
Ceyhan, Ayse and Anastassia Tsoukala, 2002, “The Securitization of Migration in Western Societies: Ambivalent Discourses and Policies,” *Alternatives: Global, Local, Political,* 25(1): 21-39.
Cha, Victor D., 1999, *Alignment Despite Antagonism: The United States-Korea-Japan Security Triangle*, Stanford University Press.（＝2003，船橋洋一監訳『米日韓　反目を超えた連携』有斐閣．）
Chapman, David, 2008, *Zainichi Korean Identity and Ethnicity*, London: Routledge.
崔永鎬，2011，「終戦直後の在日朝鮮人・韓国人社会における『本国』指向性と第一次日韓会談」李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化 II　脱植民地化編』法政大学出版局.

鄭暎恵，2003，『民が代斉唱――アイデンティティ･国民国家・ジェンダー』岩波書店.
鄭栄桓，2012，「入管法改定と再入国許可制度の再編――『みなし再入国許可』制度と在日朝鮮人」『法律時報』84 巻 12 号.
――――，2013a，『朝鮮独立への隘路――在日朝鮮人の解放 5 年史』法政大学出版局.
――――，2013b，「『制裁』の政治と在日朝鮮人の権利」『Migrants Network』156 号.
Chung, Erin Aeran, 2010, *Immigration and Citizenship in Japan*, Cambridge University Press.（＝2012，阿部温子訳『在日外国人と市民権――移民編入の政治学』明石書店.）
Codena-Roa, Jorge, 2002, "Strategic Framing, Emotions, and Superbarrio: Mexico City's Masked Crusader," *Mobilization*, 7(2): 201-216.
Coenders, Marcel et al., 2008, "More than Two Decades of Changing Ethnic Attitudes in the Netherlands," *Journal of Social Issues,* 64(2): 269-285.
Coffé, Hilde, 2012, "Gender, Class, and Radical Right Voting," Jens Rydgren ed., *Class Politics and the Radical Right,* London: Routledge.
――――, Bruno Heyndels and Jan Vermeir, 2007, "Fertile Grounds for Extreme Right-Wing Parties: Explaining the Vlaams Blok's Electoral Success," *Electoral Studies,* 26: 142-155.
Commercio, Michele E., 2008, "Systems of Partial Control: Ethnic Dynamics in Post-Soviet Estonia and Latvia," *Comparative International Development,* 43: 81-100.
Costain, Ann, 1992, *Inviting Women's Rebellion: A Political Process Interpretation of the Women's Movement*, Baltimore: Johns Hopkins University Press.
Crist, John T. and John D. McCarthy, 1996, ""If I Had a Hammer": The Changing Methodological Repertoire of Collective Behavior and Social Movement Research," *Mobilization,* 1(1): 87-102.
Cutts, David, Robert Ford and Matthew J. Goodwin, 2011, "Anti-Immigrant, Politically Disaffected or Still Racist after All? Examining the Attitudinal Drivers of Extreme Right Support in Britain in the 2009 European Elections," *European Journal of Political Research,* 50: 418-440.
Dalton, Russel J., 2004, *Democratic Challenges, Democratic Choices: The Erosion of Political Support in Advanced Industrial Democracies*, Oxford: Oxford University Press.
―――― and Martin P. Wattenberg eds., 2000, *Parties without Partisans: Political Change in Advanced Industrial Democracies*, Oxford: Oxford University Press.
Daniels, Jessie, 2009, *Cyber Racism: White Supremacy Online and the New Attack on Civil Rights,* Lanham: Rowman & Littlefield.
Davis, James C., 1962, "Toward a Theory of Revolution," *American Sociological Review*, 27(1): 5-19.
――――, 1969, "The J-Curve of Rising and Declining Satisfactions as a Cause of Some Great Revolutions and a Contained Rebellion," Hugh Davis Graham and Ted Robert Gurr eds., *Violence in America: Historical and Comparative Perspectives,* Vol.II, Washington, DC: U.S. Government Printing Office.
Debrix, François, 2008, *Tabloid Terror: War, Culture, and Geopolitics,* London: Routledge.
de Bruijn, Simon and Mark Veenbrink, 2012, "The Gender Gap in Radical Right Voting: Explaining Differences in the Netherlands," *Social Cosmos*, 10(1): 215-231.
Dechezelles, Stéphanie, 2013, "Neo-Fascists and Padans: The Cultural and Sociological Basis of

Youth Involvement in Italian Extreme-Right Organizations," Andrea Mammone, Emmanuel Godin and Brian Jenkins eds., *Varieties of Right-Wing Extremism in Europe*, London: Routledge.

della Porta, Donatella, 1992, "Life Histories in the Analysis of Social Movement Activists," Mario Diani and Ron Eyerman eds., *Studying Collective Action*, London: Sage.

————, 1995, *Social Movements, Political Violence, and the State: A Comparative Analysis of Italy and Germany*, Cambridge: Cambridge University Press.

————, 2008, "Research on Social Movements and Political Violence," *Qualitative Sociology*, 31: 221-230.

———— and Sidney Tarrow, 1986, "Unwanted Children: Political Violence and Cycles of Protest in Italy, 1966-1973," *European Journal of Political Research*, 14: 607-632.

———— and Dieter Rucht, 1995, "Left-Libertarian Movements in Context: A Comparison of Italy and West Germany, 1965-1990," J. Craig Jenkins and Bert Klandermans eds., *The Politics of Social Protest: Comparative Perspectives on States and Social Movements,* London: UCL Press.

———— and Herbert Reiter eds., 1998, *Policing Protest: The Control of Mass Demonstrations in Western Democracies,* Minneapolis: University of Minnesota Press.

————, Massimiliano Andretta, Lorenzo Mosca and Herbert Reiter, 2006, *Globalization from Below: Transnational Activists and Protest Networks,* Minneapolis: University of Minnesota Press.

Demerath III, N. J., Gerald Marwell and Michael T. Aiken, 1971, *Dynamics of Idealism*, San Francisco: Jossey-Bass.

De Weerdt, Yves, Patrizia Catellani, Hans De Witte and Patrizia Milesi, 2007, "Perceived Socio-Economic Change and Right-wing Extremism: Results of the SIREN-Survey among European Workers," Jörg Flecker ed., *Changing Working Life and the Appeal of the Extreme Right*, Aldershot: Ashgate.

De Weerdt, Yves and Hans De Witte, 2007, "Public Safety—Private Right: The Public-Private Divide and Receptiveness of Employees to Right-Wing Extremism in Flanders (Belgium)," Jörg Flecker ed., *Changing Working Life and the Appeal of the Extreme Right*, Aldershot: Ashgate.

Diani, Mario, 1996, "Linking Mobilization Frames and Political Opportunities: Insights from Regional Populism in Italy," *American Sociological Review,* 61: 1053-69.

Diener, Alexander C. and Joshua Hagen, 2010, *Borderlines and Borderlands: Political Oddities at the Edge of the Nation-State,* Lanham: Rowman & Littlefield.

Donselaar, Jaap van, 2003, "Patterns of Response to the Extreme Right in Western Europe." Peter H. Merkl and Leonard Weinberg eds., *Right-wing Extremism in the Twenty-first Century,* London: Frank Cass.

Donnan, Hastings and Thomas M. Wilson eds., 1999, *Borders: Frontiers of Identity, Nation and State,* Oxford: Berg.

Dower, John W., 1999, *Embracing Defeat: Japan in the Wake of World War II,* W.W. Norton.（2004, 三浦陽一・高杉忠明・田代泰子訳『〔増補版〕敗北を抱きしめて』上下巻、岩波書店.）

Downs, William M., 2001, "Pariahs in Their Midst: Belgian and Norwegian Parties React to Extremist Threats," *West European Politics,* 24(3): 23-42.

————, 2002, “How Effective is the Cordon Sanitaire? Lessons from Efforts to Contain the Far Right in Belgium, France, Denmark, and Norway,” *Journal für Konflikt- und Gewaltforschung*, 4(1): 32-51.

段躍中，2003，『現代中国人の日本留学』明石書店.

Earl, Jennifer et al., 2010, “Changing the World One Webpage at a Time: Conceptualizing and Explaining Internet Activism,” *Mobilization,* 15(4): 425-446.

Earl, Jennifer and Katrina Kimport, 2011, *Digitally Enabled Social Change: Activism in the Internet Age,* Cambridge, MA: MIT Press.

Earnest, David C., 2008, *Old Nations, New Voters: Nationalism, Transnationalism, and Democracy in the Era of Global Migration*, Albany: State University of New York Press.

Eatwell, Roger, 2003, “Ten Theories of the Extreme Right,” Peter H. Merkl and L. Weinberg eds., *Right-Wing Extremism in the Twenty-First Century,* London: Frank Cass.

————, “Responses to the Extreme Right in Britain.” Roger Eatwell and Matthew J. Goodwin eds., *The New Extremism in 21st Century Britain*, London: Routledge.

———— and Matthew J. Goodwin eds., 2010, *The New Extremism in 21st Century Britain,* London: Routledge.

江橋崇編，1993，『外国人は住民です』学陽書房.

Ebata, Michi, 1997, “Right-Wing Extremism: In Search of a Definition,” Aurel Braun and Stephen Scheinberg eds., *The Extreme Right: Freedom and Security at Risk,* Boulder: Westview Press.

Edward, Arthur, 2004, “The Dutch Women's Movement Online: Internet and the Organizational Infrastructure of a Social Movement,” Wim van de Donk, Brian D. Loader, Paul G. Nixon and Dieter Rucht eds., *Cyberprotest: New Media, Citizens and Social Movements,* London: Routledge.

江頭節子，2012，「『在特会』メンバー等による朝鮮学校の授業妨害訴訟」『国際人権』23 号.

江原由美子，2007，「ジェンダー・フリー・バッシングとその影響」『年報社会学論集』20 号.

Eltantawy, Nahed and Julie B. Wiest, 2011, “Social Media in the Egyptian Revolution: Reconsidering Resource Mobilization Theory,” *International Journal of Communication*, 5: 1207-1224.

Emmers, Ralf, 2010, *Geopolitics and Maritime Territorial Disputes in East Asia*, London: Routledge.

Esseveld, Johanna and Ron Eyerman, 1992, “Which Side Are You on? Reflections on Methodological Issues in the Study of ‘Distasteful’ Social Movements,” Mario Diani and Ron Eyerman eds., *Studying Collective Action*, London: Sage.

Ezekiel, Raphael S., 2002, “An Ethnographer Looks at Neo-Nazi and Klan Groups: The Racist Mind Revisited,” *American Behavioral Scientist*, 46: 51-71.

Fangen, Katline, 1998, “Living out Our Ethnic Instincts: Ideological Beliefs among Right-wing Activists in Norway” Jeffrey Kaplan and Tore Bjørgo eds., *Nation and Race: The Developing Euro-American Racist Subculture,* Boston: Northeastern University Press.

————, 1999, “On the Margins of Life: Life Stories of Radical Nationalists,” *Acta Sociologica*, 42: 357-373.

Favell, Adrian, 1998, *Philosophies of Integration: Immigration and the Idea of Citizenship in France and Britain,* London: Macmillan.

Fennema, Meindert, 1997, “Some Conceptual Issues and Problems in the Comparison of Anti-

Immigrant Parties in Western Europe," *Party Politics,* 3(4): 473-492.
———— and Jan Tillie, 1999, "Political Participation and Political Trust in Amsterdam," *Journal of Ethnic and Migration Studies,* 25: 703-26.
Ferre, Myra Marx, 2003, "Resonance and Radicalism: Feminist Framing in the Abortion Debates of the United States and Germany," *American Journal of Sociology,* 109: 304-344.
Fischer, Claude S., 1975, "Toward a Subcultural Theory of Urbanism," *American Journal of Sociology,* 95: 1319-1341.
————, 1982, *To Dwell among Friends: Personal Networks in Town and City,* Berkeley: University of California Press.
————, 1984, *The Urban Experience*, second ed., San Diego: Harcourt Brace Jovanovich.
————, 1995, "The Subcultural Theory of Urbanism: A Twentieth-Year Assessment," *American Journal of Sociology,* 101: 543-577.
Flanagan, Constance A. and Lonnie R. Sherrod, 1998, "Youth Political Development: An Introduction," *Journal of Social Issues*, 54(3): 447-456.
Flecker, Jörg, Gudrun Hentges and Gabrielle Balazs, 2007, "Potentials of Political Subjectivity and the Various Approaches to the Extreme Right: Findings of the Qualitative Research," Jörg Flecker ed., *Changing Working Life and the Appeal of the Extreme Right*, Aldershot: Ashgate.
Fontana, Marie-Christine, Andreas Sidler and Sibylle Hardmeier, 2006, "The 'New Right' Vote: An Analysis of the Gender Gap in the Vote Choice for the SVP," *Swiss Political Science Review*, 12(4): 243-271.
Ford, Robert and Matthew J. Goodwin, 2010, "Angry White Men: Individual and Contextual Predictors of Support for the British National Party," *Political Studies,* 58: 1-25.
Fowler, Robert Booth et al., 2010, *Religion and Politics in America: Faith, Culture and Strategic Choices,* fourth edition, Boulder: Westview Press.
Franklin, Mark et al. 2009, *Electoral Change: Responses to Evolving Social and Attitudinal Structures in Western Countries*, Colchester: ECPR Press.
Fromm, Erich, 1941, *Escape from Freedom*, Reinehart and Winston.（＝1951，日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社.）
藤村修，2011，「『大きな物語の終焉』――『大義』はどこへゆく？」『デルクイ』1号.
藤生明，2011，「リアル右翼『愛国の作法』」『AERA』2011年1月24日号.
藤岡美恵子，2007，「植民地主義の克服と『多文化共生』論」中野憲志編『制裁論を超えて――朝鮮半島と日本の＜平和＞を紡ぐ』新評論.
藤田智博，2011，「インターネットと排外性の関連における文化差――日本・アメリカ比較調査の分析から」『年報人間科学』32号.
福本拓，2008，「《マンガ嫌韓流》におけるマンガ表現の技法とその限界――作品の『読み』の側面に着目して」『世界人権問題研究センター研究紀要』13号.
福岡安則，1993，『在日韓国･朝鮮人――若い世代のアイデンティティ』中央公論社.
————・辻山ゆき子，1991，『同化と異化のはざまで――在日若者世代のアイデンティティ葛藤』新幹社.
————・金明秀，1997，『在日韓国人青年の生活と意識』東京大学出版会.

古屋哲，2005，「見られる者と見る者――監視社会と外国人」小倉利丸編『グローバル化と監視警察国家への抵抗――戦時電子政府の検証と批判』樹花舎.
――――，2012，「日本におけるヘイトスピーチ・大阪集会コメントメモ」.
Furuya, Satoru, 2003, “Migrants, National Security and September 11: The Case of Japan,” *Race & Class*, 44(4): 52-62.
古谷ツネヒラ，2012，『フジテレビデモに行ってみた！』青林堂.
――――，2013，『ネット右翼の逆襲――「嫌韓」思想と新保守論』総和社.
古谷経衡，2015，「『ネトウヨ』と『行動する保守』」『WiLL』121 号.
Gamson, William A., 1992, “The Social Psychology of Collective Action,” Aldon D. Morris and Carol M. Mueller eds., *Frontiers in Social Movement Theory*, New Haven: Yale University Press.
――――, Bruce Fireman, Steven Rytina, 1982, *Encounters with Unjust Authority*, Homewood: The Dorsey Press.
――――― and David S. Meyer, 1996, “Framing Political Opportunity,” Doug McAdam, John D. McCarthy and Mayer N. Zald eds., *Comparative Perspective on Social Movements: Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framing*, Cambridge: Cambridge University Press.
Gans, Herbert, 1979, “Symbolic Ethnicity: The Future of Ethnic Groups and Cultures in America,” *Ethnic and Racial Studies*, 2(1): 1-20.
――――, 1994, “Symbolic Ethnicity and Symbolic Religiosity: Towards a Comparison of Ethnic and Religious Acculturation,” *Ethnic and Racial Studies*, 17(4): 577-592.
外国人差別ウォッチ･ネットワーク編，2004，『外国人包囲網――「治安悪化」のスケープゴート』現代人文社.
――――編，2008，『外国人包囲網 PART2――強化される管理システム』現代人文社.
Garrett, Kelly, 2006, “Protest in an Informational Society: A Review of Literature on Social Movements and New ICTs,” *Information, Communication and Society*, 9(2): 202-224.
Gidengil, Elizabeth et al., 2005, “Explaining the Gender Gap in Support for the Radical Right: The Case of Canada,” *Comparative Political Studies*, 38(10): 1171-1195.
Giugni, Marco, Ruud Koopmans, Florence Passey and Paul Statham, 2005, “Institutional and Discursive Opportunities for Extreme-Right Mobilization in Five Countries,” *Mobilization,* 10(1): 145-162.
Givens, Terrie E., 2004, “The Radical Right Gender Gap,” *Comparative Political Studies,* 37(1): 30-54.
――――, 2005, *Voting Radical Right in Western Europe,* Cambridge: Cambridge University Press.
Glaser, Jack, Jay Dixit and Donald P. Green, 2002, “Studying Hate Crimes with the Internet: What Makes Racist Advocate Racial Violence?” *Journal of Social Issues,* 58(1): 177-193.
グラック、キャロル，2007，梅崎透訳『歴史で考える』岩波書店.
Goffman, Erving, 1961, *Asylum: Essays on the Social Situation of Mental Patients and Other Inmates*, Anchor.（＝1984，石黒毅訳『アサイラム――施設被収容者の日常世界』誠信書房．）
Gómez-Reino, Margarita and Iván Llamazares, 2013, “The Populist Radical Right and European Integration: A Comparative Analysis of Party–Voter Links,” *West European Politics,* 36(4): 789-

816.
Goodwin, Jeff, James M. Jasper and Francesca Polletta, 2000, “The Return of the Repressed: The Fall and Rise of Emotions in Social Movement Theory,” *Mobilization,* 5(1): 65-83.
————, 2001, “Introduction: Why Emotions Matter,” Jeff Goodwin, James M. Jasper and Francesca Polletta eds., *Passionate Politics: Emotions and Social Movements,* Chicago: University of Chicago Press.
Goodwin, Matthew J., 2008a, “Backlash in the 'Hood: Determinants of Support for the British National Party (BNP) at the Local Level,” *Journal of Contemporary European Studies,* 16(3): 347-361.
————, 2008b, “Research, Revisionists and the Radical Right,” *Politics*, 28(1): 33-40.
————, 2010, “Activism in Contemporary Extreme Right Parties: The Case of the British National Party (BNP),” *Journal of Elections, Public Opinion and Parties,* 20(1): 31-54.
————, 2011, *New British Fascism: Rise of the British National Party,* London: Routledge.
———— et al., 2010, “Who Votes Extreme Right in Twenty-First-Century Britain? The Social Bases of Support for the National Front and British National Party,” Roger Eatwell and Matthew J. Goodwin eds., *The New Extremism in 21st Century Britain*, London: Routledge.
Gordon, Milton M., 1964, *Assimilation in American Life*, Oxford University Press.（＝2000，倉田和四生ほか訳『アメリカンライフにおける同化理論の諸相』晃洋書房.）
五島昭，2005，「欧州極右政党の進出とその背景」『NUCB journal of economics and information science』49 巻 2 号.
Gottlieb, Nanette and Mark McLelland eds., 2001, *Japanese Cybercultures*, London: Routledge.
Granovetter, Mark, 1973, “The Strength of Weak Ties,” *American Journal of Sociology*, 78: 1360-80.
————, 1985, “Economic Action and Social Structure: The Problem of Embeddedness,” *American Journal of Sociology,* 91: 481-510.
Green, Donald P. and Andrew Rich, 1998, “White Supremacist Activity and Crossburnings in North Carolina,” *Journal of Quantitative Criminology,* 14(3): 263-282.
Gurr, Ted Robert, 2011, *Why Men Rebel*, Fortieth Anniversary Edition, Boulder: Paradigm.
Gusfield, Joseph R., 1994, “The Reflexivity of Social Movements: Collective Behavior and Mass Society Theory Revisited,” Enrique Laraña, Hank Johnston and Joseph R. Gusfield eds., *New Social Movements: From Ideology to Identity,* Philadelphia: Temple University Press.
河昌玉，1976，「在日朝鮮人の人権問題」上田誠吉・藤島宇内編『朝鮮の統一と人権』合同出版.
Haddad, Emma, 2007, “Danger Happens at the Border,” Prem Kumar Rajaram and Carl Grundy-Warr eds., *Borderscapes: Hidden Geographies and Politics at Territory’s Edge,* Minneapolis: University of Minnesota Press.
Hagelund, Anniken, 2003, “A Matter of Decency? The Progress Party in Norwegian Immigration Politics,” *Journal of Ethnic and Migration Studies,* 29(1): 47-65.
Halikiopoulou, Daphne, Steven Mock and Sofia Vasilopoulou, 2013, “The Civic Zeitgeist: Nationalism and Liberal Values in the European Radical Right,” *Nations and Nationalism*, 19(1): 107-127.
濱田国祐，2011，「移民――外国人増加に誰がメリットを感じ、誰がデメリットを感じるのか？」田辺俊介編『外国人へのまなざしと政治意識――社会調査で読み解く日本のナシ

ョナリズム』勁草書房.
濱口和久，2010,「鳩山政権と領土問題の危機」『祖国と青年』377 号.
Hammar, Tomas, 1990, *Democracy and the Nation State*, Aldershot: Avebury.
韓さんの指紋押捺拒否を支える会, 1990,『指紋押捺拒否者が裁いたニッポン』社会評論社.
韓載香，2010,『「在日企業」の産業経済史』名古屋大学出版会.
韓東賢，2006,『チマ･チョゴリ制服の民族誌――その誕生と朝鮮学校の女性たち』双風舎.
韓英均，2010,「反韓と反日――嫌韓流からみえてくるもの」『社学研論集』16 号.
Hansen, Lene, 2006, *Security as Practice: Discourse Analysis and the Bosnian War,* London: Routledge.
原田峻・高木竜輔・松谷満・申琪榮・樋口直人・稲葉奈々子・成元哲，2012a,「政権交代と社会運動――問題関心の表明と論点整理の試み」『中京大学現代社会学部紀要』5 巻 2 号.
原田峻・高木竜輔・松谷満・申琪榮・樋口直人・稲葉奈々子・成元哲，2012b,「政権交代と社会運動をめぐるイシュー･アテンション――民主党政権前後を事例として」『茨城大学人文コミュニケーション学科論集』13 号.
原尻英樹，1998,『「在日」としてのコリアン』講談社.
――――，2006,「『嫌韓流』にみる日本定住コリアンのイメージ――朝鮮蔑視観と自己中心性の病」『アジア遊学』92号.
長谷川公一，1985,「社会運動の政治社会学――資源動員論の意義と課題」『思想』737号
嘴本郁, 2011,「外国人の生活保護をめぐる大分地裁判決と厚労省通知について」『Migrant’s ネット』136号.
橋本みゆき，2010,『在日韓国･朝鮮人の親密圏――配偶者選択のストーリーから読む<民族>の現在』社会評論社.
畑山敏夫，1997,『フランス極右の新展開』国際書院.
――――，2007, 『現代フランスの新しい右翼――ルペンの見果てぬ夢』法律文化社.
初瀬龍平編，1988,『内なる国際化 改訂増補版』三嶺書房.
早瀬善彦，2009a,「在日大韓民国民団と外国人参政権付与政策」『澪標』6 巻 3 号.
――――，2009b,「諸外国における外国人参政権導入の経緯とその実態」『澪標』6 巻 4 号.
――――，2010,「日本における外国人参政権問題――導入論出現の背景と現状」『澪標』7 巻 1 号.
――――，2011,「在日外国人の地位と参政権問題――国籍・法制度の視点から」『澪標』8 巻 1 号.
Hayduk, Ron, 2006, *Democracy for All: Restoring Immigrant Voting Rights in the United States,* New York: Routledge.
Hechter, Michael, 1999, *Internal Colonialism: The Celtic Fringe in British National Development*, Second edition, New Brunswick: Transaction.
Heinisch, Reinhard, 2003, “Success in Opposition—Failure in Government: Explaining the Performance of Right-wing Populist Parties in Public Office,” *West European Politics*, 26(3): 91-130.
ヘイトスピーチと排外主義に加担しない出版関係者の会編，2014,『NO ヘイト！――出版の製造者責任を考える』ころから.

Hester, Jeffry, 2008, “Datsu Zainichi-ron: An Emerging Discourse on Belonging among Ethnic Koreans in Japan,” Nelson H. H. Graburn, John Ertl and Kenji Tierney eds., *Multiculturalism in the New Japan: Crossing the Boundaries within*, New York: Berghahn Books.

Hettne, Björn and Elisabeth Abiri, 1998, “The Securitization of Cross-Border Migration: Sweden in the Era of Globalization,” Nana Poku and David T. Graham eds., *Redefining Security: Population Movements and National Security,* New York: Praeger.

比嘉康光，2007，「東ドイツにおける極右問題をめぐる若干の考察」『武蔵大学人文学会雑誌』38 巻 4 号.

東原正明，2005a,「極右政党としてのオーストリア自由党――ハイダー指導下の台頭期を中心に(1)」『北海学園大学法学研究』41 巻 2 号.

――――，2005b,「極右政党としてのオーストリア自由党――ハイダー指導下の台頭期を中心に(2)」『北海学園大学法学研究』41 巻 3 号.

――――，2006a,「極右政党としてのオーストリア自由党――ハイダー指導下の台頭期を中心に(3)」『北海学園大学法学研究』42 巻 1 号.

――――，2006b,「極右政党としてのオーストリア自由党――ハイダー指導下の台頭期を中心に(4)」『北海学園大学法学研究』42 巻 2 号.

――――，2006c,「極右政党としてのオーストリア自由党――ハイダー指導下の台頭期を中心に(5)」『北海学園大学法学研究』42 巻 3 号.

――――，2006d,「極右政党としてのオーストリア自由党――ハイダー指導下の台頭期を中心に(6)」『北海学園大学法学研究』42 巻 4 号.

――――，2007,「極右政党としてのオーストリア自由党――ハイダー指導下の台頭期を中心に(7)」『北海学園大学法学研究』43 巻 1 号.

樋口直人，1999,「社会運動のミクロ分析」『ソシオロジ』135 号.

――――, 2000a, 「対抗と協力――市政決定メカニズムのなかで」宮島喬編『外国人市民と政治参加』有信堂.

――――, 2000b, 「自治体の国際化政策と諮問機関」宮島喬編『外国籍住民と社会的・文化的受け入れ施策』科学研究費報告書.

――――，2001a,「外国人参政権論の日本的構図――市民権論からのアプローチ」NIRA シティズンシップ研究会編『多文化社会の選択――「シティズンシップ」の視点から』日本経済評論社.

――――，2001b,「外国人の行政参加システム――外国人諮問機関の検討を通じて」『都市問題』92 巻 4 号.

――――，2005,「共生から統合へ」梶田孝道・丹野清人・樋口直人『顔の見えない定住化――日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会.

――――, 2010,「人種主義と排外主義を欧州と日本から考える」『Migrant’s ネット』127 号.

――――，2011a,「東アジア地政学と外国人参政権――日本版デニズンシップをめぐるアポリア」『社会志林』57 巻 4 号.

――――，2011b,「外国人参政権をめぐる虚構と現実」『世界思想』38 号.

――――，2012a,「在特会の論理（1）――拉致問題で『舵が切り換った』A 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』25 号.

————, 2012b,「在特会の論理（2）――『心震える歴史』を経験した B 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』25 号.
————, 2012c,「在特会の論理（3）――『鬱憤ばらしじゃ続かない』C 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』25 号.
————, 2012d,「在特会の論理（4）――教育勅語を暗記している D 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』25 号.
————, 2012e,「在特会の論理（5）――『普通に生活できる時代』を取りもどしたい E 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』25 号.
————, 2012f,「在特会の論理（6）――ワールドカップがきっかけとなった F 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』25 号.
————, 2012g,「在特会の論理（7）――『自分のなかで問題提起された』G 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』25 号.
————, 2012h,「在特会の論理（8）――『嫌韓流』を地で行く H 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』1 号.
————, 2012i,「在特会の論理（9）――『創価学会をつぶす』動画に引き込まれた I 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』1 号.
————, 2012j,「在特会の論理(10) ――愛国心と排外主義の間・J 氏の場合」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』8 号.
————, 2012k,「在特会の論理（11）――ノンポリ転じて活動家になった K 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』2 号.
————, 2012l,「在特会の論理（12）――在特会が多くの人に勇気を与えたという L 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』2 号.
————, 2012m,「在特会の論理（13）――大学時代から『正論』を読んでいた M 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』2 号.
————, 2012n,「在特会の論理（14）――交際相手に勧誘された N 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』2 号.
————, 2012o,「在特会の論理（15）――『元々右だった』O 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』26 号.
————, 2012p,「在特会の論理（16）――歴史問題が気にかかっていた P 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』26 号.
————, 2012q,「在特会の論理（17）――1 人で街宣していた動画に引き込まれた Q 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』26 号.
————, 2012r,「在特会の論理（18）――職場にあった産経新聞を気に入った R 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』26 号.
————, 2012s,「『行動する保守』の論理（1）――中国が重要というα氏の場合」『徳島大学地域科学研究』1 号.
————, 2012t,「『行動する保守』の論理（2）――外国人参政権に反対するβ氏の場合」『徳島大学地域科学研究』1 号.
————, 2012u,「『行動する保守』の論理（3）――在特会から学んだγ氏の場合」『徳島大学地域科学研究』1 号.

————, 2012v,「『行動する保守』の論理(4)――『さらなる右』としての排外主義を実践するδ氏の場合」『茨城大学地域総合研究所年報』45 号.
————, 2012w,「『行動する保守』の論理（5）――トンデモ本から歴史問題をめぐる嫌悪感へ・ε氏の場合」『徳島大学地域科学研究』2 号
————, 2012x,「『行動する保守』の論理（6）――中国が重要だというα氏・再」『徳島大学地域科学研究』2 号.
————, 2012y,「排外主義運動のミクロ動員過程――なぜ在特会は動員に成功したのか」『アジア太平洋レビュー』9 号.
————, 2012z,「日本のエスニック・ビジネスをめぐる見取り図」樋口直人編『日本のエスニック・ビジネス』世界思想社.
————, 2013a,「『行動する保守』の論理(7)――右翼に弟子入りしたη氏の場合」『アジア太平洋研究センター年報』9 号.
————, 2013b,「『行動する保守』の論理(8) ――『ネット右翼のカリスマ』Z 氏の場合」『茨城大学地域総合研究所年報』46 号.
————, 2013c,「在特会の論理(19)――カナダで変わった S 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』27 号.
————, 2013d,「在特会の論理(20)――戸塚ヨットスクールに共鳴した T 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』27 号.
————, 2013e,「在特会の論理(21)――インターナショナルスクールで学んだ U 氏の場合」『徳島大学社会科学研究』27 号.
————, 2013f,「在特会の論理(22)――『日の丸をじいちゃんが掲げた』V 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』3 号.
————, 2013g,「在特会の論理(23)――インターネットで世界が変わった W 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』3 号.
————, 2013h,「在特会の論理(24)――労組専従から右旋回した X 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』3 号.
————, 2013i,「在特会の論理(25)――勉強サークルとしての在特会に参加した Y 氏の場合」『徳島大学地域科学研究』3 号.
————, 2013j,「『行動する保守』の論理(9)――国家革新の一部として排外主義運動に参加するθ氏の場合」『徳島大学地域科学研究』3 号.
————, 2013k,「極右政党の社会的基盤――支持者像と支持の論理をめぐる先行研究の検討」『アジア太平洋レビュー』10 号.
————, 2013l,「排外主義運動の核心をつかむ――在特会調査からみえてきたもの」『Journalism』282 号.
————, 2013m,「与那国島が乗っ取られる!?――国境の島からみえる排外主義」『Migrant Network』156 号.
————, 2014a,『日本型排外主義――在特会・外国人参政権・東アジア地政学』名古屋大学出版会.
————, 2014b,「日本型排外主義の背景――なぜ今になってヘイトスピーチが跋扈するのか」『日本の科学者』49 巻 12 号.

————, 2014c,「日本政治のなかの極右」『北海道新聞』2014 年 4 月 4 日付.
————, 2014d,「排外主義——問われる政治の姿勢」『ウォロ』495 号.
————, 2014e,「ヘイトスピーチと排外主義——根本的な対策のために」『聖教新聞』2014 年 8 月 7 日付.
————, 2014f,「極右を保守から切り離せ」『朝日新聞』2014 年 10 月 2 日付.
————, 2014g,「政治に逆流する排外主義——橋下市長－桜井在特会会長の会談から見えたもの」『The Page』2014.11.7（http://thepage.jp/detail/20141107-00000006-wordleaf）.
————, 2014h,「日本型排外主義と在日韓国・朝鮮人」『RAIK 通信』145 号.
————, 2015a,「日本の移民政策と反知性主義——市民権の廃墟からの出発にむけて」『現代思想』43 巻 2 号.
————, 2015b,「日本政治のなかの極右」『世界』866 号.
————, 2015c,「ソーシャル・キャピタルと社会運動」坪郷實編『ソーシャル・キャピタル』ミネルヴァ書房.
————, 2015d,「在日コリアンの社会経済的状況の動態——職業の変遷を中心に」『青鶴』6 号.
————, 2015e,「排外主義勢力といかに対峙すべきか——極右への対応をめぐるレビュー」『コリアン・スタディーズ』3 号.
————, 2015f,「書評に応えて」『ソシオロジ』182 号.
————・中澤秀雄・水澤弘光, 1999,「住民運動と組織戦略——政治的機会構造と誘因構造に注目して」『社会学評論』49 巻 4 号.
————・稲葉奈々子, 2004,「グローバル化と社会運動」曽良中清司ほか編『社会運動という公共空間——理論と方法のフロンティア』成文堂.
————・丸山真央, 2006,「外国人参政権と世論」田中宏・金敬得編『日・韓「共生社会」の展望——韓国で実現した外国人地方参政権』新幹社.
————・松谷満, 2013,「右翼から極右へ？——日本版極右としての石原慎太郎の支持基盤をめぐって」『理論と動態』5 号.
Higuchi, Naoto, 2014, "Japan's Far Right in East Asian Geopolitics: The Anatomy of New Xenophobic Movements,"『徳島大学社会科学研究』28 号.
樋口雄一, 2002,『日本の朝鮮･韓国人』同成社.
Hilgartner, Stephen and Charles L. Bosk, 1988, "The Rise and Fall of Social Problems: A Public Arenas Model," *American Journal of Sociology*, 94: 53-78.
平林祐子, 2013,「何が『デモのある社会』をつくるのか——ポスト 3.11 のアクティヴィズムとメディア」田中重好・舩橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学——大災害を生み出した社会』ミネルヴァ書房.
平松茂雄, 2010,「国を危うくする『外国人地方参政権』」『治安フォーラム』16 巻 4 号.
廣田全男, 2000,「外国人市政参加の法的検討」宮島喬編『外国人市民と政治参加』有信堂.
〔ひとさし指の自由〕編集委員会編, 1984,『ひとさし指の自由——外国人登録法・指紋押捺拒否を闘う』社会評論社.
Hochschild, Jennifer L. and John H. Mollenkopf eds., 2009, *Bringing Outsiders in: Transatlantic Perspectives on Immigrant Political Incorporation,* Ithaca: Cornell University Press.

Hoffer, Eric, 1951, *The True Believer: Thoughts on the Nature of Mass Movements*, Harper & Brothers.（＝2003，高根正昭訳『大衆運動』紀伊國屋書店．）
外間守吉，2012，「与那国町の将来展望――人口増加という課題」『別冊 環』19 号.
Honda, Yuki, 2007, "Focusing in on Contemporary Japan's 'Youth' Nationalism," *Social Science Japan Journal,* 10(2): 281-286.
本郷正武，2007，『HIV/AIDS をめぐる集合行為の社会学』ミネルヴァ書房.
堀幸雄，1993，『増補 戦後の右翼勢力』勁草書房.
『ほるもん文化』編集委員会編，1992，『在日朝鮮人が選挙に行く日』新幹社.
保坂展人，2011，「政治的に『いない』存在をなくすために」『部落解放』644 号.
星野智，1998，「ドイツにおける極右主義の台頭とその背景」『法学新報』104 巻 8-9 号.
Husbands, Christopher T., 1981, "Contemporary Radical Right-Wing Extremism in Western European Democracies: A Review Article," *European Journal of Political Research,* 9: 75-99.
――――, 1983, *Racial Exclusionism and the City: The Urban Support of the National Front,* London: George Allen & Unwin.
――――, 2002, "How to Tame the Dragon, or What Goes Around Comes Around: A Critical Review of Some Major Contemporary Attempts to Account for Extreme-Right Racist Politics in Western Europe," Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe*, London: Palgrave.
Huysmans, Jef, 1995, "Migrants as a Security Problem: Dangers of 'Securitizing' Societal Issues," Robert Miles and Dietrich Thränhardt eds., *Migration and European Integration: The Dynamics of Inclusion and Exclusion,* London: Pinter.
――――, 2006, *The Politics of Insecurity: Fear, Migration and Asylum in the EU*, London: Routledge.
――――, 2011, "What's in an Act? On Security Speech Acts and Little Security Nothings," *Security Dialogue,* 42(4-5): 371–383.
ファン・ソンビン，2003，「W 杯と日本の自画像、そして韓国という他者」『マス・コミュニケーション研究』62 号.
黄盛彬，2011，「韓流と反韓流の交差――日本人のアイデンティティと韓国認識」『日本學』33 号.
玄武岩，2008，「グローバル化する人権――『反日』の日韓同時代史」岩崎稔ほか編『戦後日本スタディーズ③――「80・90」年代』紀伊国屋書店.
Ibrahim, Maggie, 2005, "The Securitization of Migration: A Racial Discourse," *International Migration,* 43(5): 163-187.
Iglesias, Julien Danero, Nenad Stojanović and Sharon Weinblum eds., 2013, *New Nation-States and National Minorities*, Colchester: ECPR Press.
Ignazi, Piero, 1992, "The Silent Counter-Revolution: Hypotheses on the Emergence of Extreme Right Parties in Europe," *European Journal of Political Research*, 22: 3-34.
――――, 2002, "The Extreme Right: Defining the Object and Assessing the Causes," Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe*, London: Palgrave.
――――, 2003, *Extreme Right Parties in Western Europe,* Oxford: Oxford University Press.

移住連貧困プロジェクト編，2011，『日本で暮らす移住者の貧困』現代人文社.
Immerfall, Stefan, 1998, “The Neo-Populist Agenda,” Hans-Georg Betz and Stefan Immerfall eds., *The New Politics of the Right: Neo-Populist Parties and Movements in Established Democracies,* New York: St. Martin’s Press.
稲葉奈々子，2011，「＜サンパピエ＞の運動と反植民地主義言説――作動しなかったポストコロニアリズム」竹沢尚一郎編『移民のヨーロッパ―国際比較の視点から』明石書店.
――――・大曲由起子・髙谷幸・樋口直人・鍛治致，2014，「1985年国勢調査にみる在日外国人の仕事」『茨城大学人文コミュニケーション学科論集』17号.
Inglehart, Ronald and Pippa Norris, 2003, *Rising Tide: Gender Equality and Cultural Change around the World,* New York: Cambridge University Press.
井上薫，2010，『ここがおかしい、外国人参政権』文藝春秋社.
Ireland, Patrick, 1994, *The Policy Challenge of Ethnic Diversity: Immigrant Politics in France and Switzerland,* Cambridge, MA: Harvard University Press.
石橋英昭，2013，「『臭いもの』を忌避している間に社会の公正さは損なわれていった」『Journalism』282 号.
石原昌家，1982，『大密貿易の時代――占領初期沖縄の民衆生活』晩餐社.
――――，2000，『空白の沖縄社会史――戦果と密貿易の時代』晩餐社.
磯貝治良，1986，「『在日』の思想・生き方を読む」『季刊三千里』46 号.
板垣竜太，2007，「『マンガ嫌韓流』と人種主義－国民主義の構造」『前夜』11 号.
――――，2013，「朝鮮学校への嫌がらせ裁判に対する意見書」『評論・社会科学』105 号.
――――，2015，「言葉を暴力をめぐる断想――『ヘイト・スピーチ』を考える」『インパクション』197 号.
伊藤昌亮，2011，『フラッシュモブズ――儀礼と運動の交わるところ』NTT 出版.
伊藤るり，1991，「＜新しい市民権＞と市民社会の変容――移民の政治参加とフランス国民国家」宮島喬・梶田孝道編『統合と分化のなかのヨーロッパ』有信堂.
Ivarsflaten, Elisabeth, 2005, “The Vulnerable Populist Right Parties: No Economic Realignment Fuelling Their Electoral Success,” *European Journal of Political Research,* 44: 465–492.
――――, 2008, “What Unites Right-Wing Populists in Western Europe? Re-Examining Grievance Mobilization Models in Seven Successful Cases,” *Comparative Political Studies,* 41(1): 3-23.
――――― and Rune Stubager, 2012, “Voting for the Populist Radical Right in Western Europe: The Role of Education,” Jens Rydgren ed., *Class Politics and the Radical Right,* London: Routledge.
岩間陽子，1999，「最近のドイツにおける極右主義問題」『海外事情』47 巻 12 号.
岩崎昌子，2008，「ノルウェーの移民をめぐる『平等』論争――新右翼政党が問いかけた『社会的連帯』」『北ヨーロッパ研究』5 巻.
岩田温，2009，「国民国家の形成――外国人参政権問題研究序説」『澪標』6 巻 4 号.
――――，2015，「在特会と大江健三郎――ヘイトスピーチを保守は認めない」『正論』517 号.
井沢泰樹，2014，「ヘイトスピーチと若者の意識――大都市圏の大学生の調査から」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』16 号.

井関正久，2003，「極右問題をめぐる社会学的論考――統一ドイツを事例に」『ヨーロッパ研究』2 号.

Jacobs, Dirk, 1998, “Discourses, Politics and Policy: The Dutch Parliamentary Debate about Voting Rights for Foreign Residents,” *International Migration Review*, 32: 350-373.

――――, 1999, “The Debate over Enfranchisement of Foreign Residents in Belgium,” *Journal of Ethnic and Migration Studies,* 25(4): 649-663.

―――― and Marc Swyngedouw, 2002, “The Extreme Right and Enfranchisement of Immigrants: Main Issues in the Public ‘Debate’ on Integration in Belgium,” *International Migration and Integration,* 3(3-4): 329-344.

――――, Karen Phalet and Marc Swyngedouw, 2004, “Associational Membership and Political Involvement among Ethnic Minority Groups in Brussels,” *Journal of Ethnic and Migration Studies,* 30: 543-59.

James, Nigel, 2001, “Militias, the Patriot Movement and the Internet: The Ideology of Conspiracism,” Jane Parish and Martin Parker eds., *The Age of Anxiety: Conspiracy Theories and the Human Science,* Oxford: Wiley-Blackwell.

Jamin, Jérôme, 2013, “Two Different Realities: Notes on Populism and the Extreme Right,” Andrea Mammone, Emmanuel Godin and Brian Jenkins eds., *Varieties of Right-wing Extremism in Europe,* London: Routledge.

Jansson, David, 2010, “The Head vs. the Gut: Emotions, Positionality, and the Challenge of Fieldwork with a Southern Nationalist Movement,” *Geoforum*, 41: 19-22.

Jaschke, Hans-Gerd, 2013, “Right-wing Extremism and Populism in Contemporary Germany and Western Europe,” Sabie von Mering and Timothy Wyman McCarthy eds., *Right-wing Radicalism Today: Perspectives from Europe and the US,* London: Routledge.

Jasper, James M., 1997, *The Art of Moral Protest: Culture, Biography, and Creativity in Social Movements*, Chicago: University of Chicago Press.

Jenkins, J. Craig, 1985, *The Politics of Insurgency: Farm Workers Movement in the Sixties*, New York: Columbia University Press.

―――― and Bert Klandermans eds., 1995, *The Politics of Social Protest: Comparative Perspectives on States and Social Movements,* London: UCL Press.

自由民主党政務調査会与那国町調査団，2010，「外国人地方参政権問題〔資料集〕」『政策特報』1355 号.

Johnston, Hank, 1991, *Tales of Nationalism: Catalonia, 1939-1979*, New Brunswick: Rutgers University Press.

――――, 1995, “A Methodology for Frame Analysis: From Discourse to Cognitive Schemata,” Hank Johnston and Bert Klandermans eds., *Social Movement and Culture*, London: UCL Press.

上丸洋一，2011，『「諸君！」「正論」の研究――保守言論はどう変容してきたか』岩波書店.

Jones-Correa, M., 1998, *Between Two Nations: The Political Predicament of Latinos in New York City,* Ithaca: Cornell University Press.

鍛治致・髙谷幸・大曲由起子・樋口直人，2013，「1995年と2000年の国勢調査に見る外国人の教育――外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『大阪成蹊大学マネジメント学部紀要』10号.
鍛治致・髙谷幸・大曲由起子・樋口直人・稲葉奈々子，2015，「1980年と1985年の国勢調査にみる外国人の教育――外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『大阪成蹊大学マネジメント学部紀要』12号.
梶田孝道，1996，『国際社会学のパースペクティブ』東京大学出版会.
梶原克彦，2009，「オーストリアにおけるポピュリズム現象と民主主義――戦後政治システムの変容」島田幸典・木村幹編『ポピュリズム・民主主義・政治指導――制度的変動期の比較政治学』ミネルヴァ書房.
Kalicki, Konrad, 2008, “Voting Rights of the 'Marginal': The Contested Logic of Political Membership in Japan,” *Ethnopolitics*, 7: 265-286.
Kallis, Aristotle, 2013, “Breaking Taboos and ‘Mainstreaming the Extreme’: The Debates on Restricting Islamic Symbols in Contemporary Europe,” Ruth Wodak, Majid KhosraviNik and Brigitte Mral eds., *Right-wing Populism in Europe: Politics and Discourse,* London: Bloomsbury.
神奈川新聞社会部，1985，『日本の中の外国人――「人さし指の自由」を求めて』神奈川新聞社.
神原元，2014，『ヘイト・スピーチに抗する人びと』新日本出版社.
金友隆幸，2011a，『支那人の日本侵略』日新報道.
――――，2011b，「『美徳』を捨ててでも支那人と対峙せよ！」『国体文化』1048 号.
姜徳相，2003，『〔新版〕関東大震災・虐殺の記憶』青丘文化社.
姜在彦・金東勲，1989，『在日韓国･朝鮮人――歴史と展望』労働経済社.
姜尚中，1985a，「『在日』の現在と未来の間」『季刊三千里』42 号.
――――，1985b，「方法としての『在日』」『季刊三千里』44 号.
――――，1989，「昭和の終焉と現代日本の『心象地理＝歴史』――教科書の中の朝鮮を中心として」『思想』786 号.
――――，1992，「『在日』の新たな機軸を求めて――抵抗と参加のはざまで」『青丘』13 号.
――――，1994，「転形期の『在日』と参政権」『青丘』20 号.
――――，1996，『オリエンタリズムの彼方へ――近代文化批判』岩波書店.
韓国民団中央本部編，2014，『ヘイト・スピーチを許してはいけない』新幹社.
川崎市外国籍市民意識実態調査研究委員会，1993，『川崎市外国籍市民意識実態調査報告書』.
関東弁護士会連合会編，2012，『外国人の人権』明石書店.
Kaplan, Jeffrey and Tore Bjørgo eds., 1998, *Nation and Race: The Developing Euro-American Racist Subculture,* Boston: Northeastern University Press.
苅部直，2006，「浮遊する歴史――1990 年代の天皇論」『社會科學研究』58 巻 1 号.
駆井翼，2008，「右翼運動に影響を与える諸事情」『治安フォーラム』14 巻 7 号.
Karvonen, Lauri, 2004, “The New Extreme Right-Wingers in Western Europe: Attitudes, World Views and Social Characteristics,” Peter Merkl and Leonard Weingberg eds., *The Revival of Right-Wing Extremism in the Nineties,* London: Frank Cass.

柏崎千佳子，2002，「国籍のあり方――文化的多様性の承認に向けて」近藤敦編『外国人の法的地位と人権擁護』明石書店.
柏崎正憲，2011，「現代日本における排外ナショナリズムと植民地主義の否認――批判のために」岩崎稔・陳光興・吉見俊哉編『カルチュラル･スタディーズで読み解くアジア』せりか書房.
片岡大右，2013，「フランスと日本の右傾化とレイシズム――アイデンティティ派と在特会」『人間と教育』79 号.
加藤晴乃，2012，「保守運動観点からのジェンダーバッシング言説――フレーム分析を使用して」『格差センシティブな人間発達科学の創成公募研究成果論文集』20 号.
河合幹雄，2004，『安全神話崩壊のパラドックス――治安の法社会学』岩波書店.
川北稔，2004，「社会運動と集合的アイデンティティ――動員過程におけるアイデンティティの諸相」曽良中清司ほか編『社会運動という公共空間――理論と方法のフロンティア』成文堂.
河村洋二，2011，「徳島県教組襲撃事件とネット右翼『在特会』」『科学的社会主義』161 号.
Keck, Margalet E. and Kathryn Sikkink, 1998, *Activists beyond Borders: Advocacy Networks in International Politics,* Ithaca: Cornell University Press.
Keniston, Kenneth, 1968, *Young Radicals: Notes on Committed Youth,* Harcourt, Brace & World.（＝1973，庄司興吉・庄司洋子訳『ヤング・ラディカルズ』みすず書房.）
――――, 1971, *Youth and Dissent: The Rise of a New Opposition*, Harcourt Brace Jovanovich.（＝1977，高田昭彦他訳『青年の異議申し立て』東京創元社.）
Kersten, Joachim, 2004, “The Right-Wing Network and the Role of Extremist Youth Groupings in Unified Germany,” Angelica Fenner and Eric D. Weitz eds., *Fascism and Neofascism: Critical Writings on the Radical Right in Europe*, London: Palgrave Macmillan.
Kessler, Alan E. and Gary P. Freeman, 2005, “Support for Extreme Right-Wing Parties in Western Europe: Individual Attributes, Political Attitudes, and National Context,” *Comparative European Politics,* 3: 261-88.
Kestel, Laurent and Laurent Godmer, 2004, “Institutional Inclusion and Exclusion of Extreme Right Parties.” Roger Eatwell and Cas Mudde eds., *Western Democracies and the New Extreme Right Challenge*, London: Routledge.
木戸衛一，2007，「ドイツ極右の着実な伸張」『阪大法学』56巻5号.
金東勲，1994，『外国人住民の参政権』明石書店.
金玄郁，2013，「イルベ――韓国のネット右翼の行方」『インパクション』191 号.
金敬得，1995，『在日コリアンのアイデンティティと法的地位』明石書店.
金敬黙，2011，「日本のなかの『在日』と社会運動――市民運動と国際連帯による再検討」李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化 I　東アジア冷戦編』法政大学出版局.
金明秀，2011，「インターネット利用史にみられる2つの《グレシャムの法則》――ハン・ワールドの体験を中心として」『日本學』33号.
――――・稲月正，2000，「在日韓国人の社会移動」高坂健次編『階層社会から新しい市民社会へ』東京大学出版会.

金富子，2011,『継続する植民地主義とジェンダー――「国民」概念・女性の身体・記憶と責任』世織書房.
金尚均，2012,「ヘイトクライムと人権――いまそこにある民族差別」石崎学・遠藤比呂通編『沈黙する人権』法律文化社.
――――編，2014,『ヘイト・スピーチの法的研究』法律文化社.
金太基，1991a,「在日韓国人三世の法的地位と『1965 年韓日協定』(1)」『一橋論叢』105 巻 1 号.
――――，1991b,「在日韓国人三世の法的地位と『1965 年韓日協定』(2)」『一橋論叢』106 巻 1 号.
――――，1997,『戦後日本政治と在日朝鮮人問題――SCAP の対在日朝鮮人政策 1945-1952 年』勁草書房.
金友子，2014,「ヘイトスピーチの『被害者』になること」『インパクション』197 号.
金栄，2008,「在日朝鮮人弾圧から見る日本の植民地主義と軍事化」金富子・中野敏男編『歴史と責任――「慰安婦」問題と1990年代』青弓社.
木宮正史，2014,「安倍政権下の日韓（朝）関係と在日コリアン問題」『日本學』38号.
Kimmel, Michael, 2007, “Racism as Adolescent Male Rite of Passage: Ex-Nazis in Scandinavia,” *Journal of Contemporary Ethnography,* 36(2): 202-218.
――――― and Abby L. Ferber, 2000, “’White Men Are This Nation’: Right-wing Militias and the Restoration of Rural American Masculinity,” *Rural Sociology*, 65(4): 582-604.
木村幹，2007,「ブームは何を残したか――ナショナリズムの中の韓流」石田佐恵子・木村幹・山中千恵編『ポスト韓流のメディア社会学』ミネルヴァ書房.
――――，2011,「外国人参政権を推進する『ナショナル・ポピュリズム』――蘆武鉉政権下の韓国の事例から」河原祐馬・島田幸典・玉田芳史編『移民と政治――ナショナル・ポピュリズムの国際比較』昭和堂.
――――，2013,「日韓歴史問題にどう向き合うか(31)――変化する日本社会」『究』31 号.
――――，2014,『日韓歴史認識問題とは何か――歴史教科書・「慰安婦」・ポピュリズム』ミネルヴァ書房.
木村元彦・清義明・安田浩一，2013,「サッカーと愛国の奇妙な関係」『週刊朝日』118 巻 45 号.
木村元彦・園子温・安田浩一，2013,『ナショナリズムの誘惑』ころから.
木村涼子編，2005,『ジェンダー･フリー･トラブル――バッシング現象を検証する』現代書館.
木下ちがや，2010,「日本の排外主義運動のゆくえ」『Migrant’s ネット』127 号.
金原左門ほか，1986,『日本のなかの韓国・朝鮮人、中国人』明石書店.
北田暁大，2005,『「嗤う」日本のナショナリズム』日本放送出版協会.
北原みのり・朴順梨，2014,『奥様は愛国』河出書房新社.
Kitschelt, Herbert, 1995, *The Radical Right in Western Europe: A Comparative Analysis*, Ann Arbor: University of Michigan Press.
Klandermans, Bert, 1992, “Social Construction of Protest and the Multiorganizational Field,” Aldon D. Morris and Carol M. Muller eds., *Frontiers in Social Movement Theory,* New Haven: Yale

University Press.
————, 1997, *Social Psychology of Collective Action*, Oxford: Blackwell.
————, 2013, "Extreme Right Activists: Recruitment and Experience," Sabie von Mering and Timothy Wyman McCarthy eds., *Right-wing Radicalism Today: Perspectives from Europe and the US,* London: Routledge.
———— and Dirk Oegema, 1987, "Potentials, Networks, Motivations and Barriers: Steps towards Participation in Social Movements," *American Sociological Review*, 52(4): 519-531.
————, Marlene Roefs and Johan Olivier, 2001, "Grievance Formation in a Country in Transition: South Africa, 1994-1998," *Social Psychology Quarterly,* 64(1): 41-54.
———— and Nonna Mayer, 2006a, "Right-Wing Extremism as a Social Movement," Bert Klandermans and Nonna Mayer eds., *Extreme Right Activists in Europe: Through the Magnifying Glass*, London: Routledge.
———— and Nonna Mayer, 2006b, "Through the Magnifying Glass: the World of Extreme Right," Bert Klandermans and Nonna Mayer eds., *Extreme Right Activists in Europe: Through the Magnifying Glass*, London: Routledge.
———— and Nonna Mayer eds., 2006c, *Extreme Right Activists in Europe: Through the Magnifying Glass*, London: Routledge.
————, Jojanneke van der Toorn and Jacquelien van Stekelenburg, 2008, "Embeddedness and Identity: How Immigrants Turn Grievances into Action," *American Sociological Review*, 73: 992-1012.
Knigge, Pia, 1998, "The Ecological Correlates of Right-Wing Extremism in Western Europe," *European Journal of Political Research,* 34: 249-279.
Knutsen, Oddbjørn, 2006, *Class Voting in Western Europe: A Comparative Longitudinal Study*, Lanham: Lexington Books.
公安調査庁，2011，『内外情勢の回顧と展望』公安調査庁.
————，2012，『内外情勢の回顧と展望』公安調査庁.
————，2013，『内外情勢の回顧と展望』公安調査庁.
小林真生編，2013，『レイシズムと外国人嫌悪』明石書店.
小林玲子，2011，「日韓会談と『在日』の法的地位問題——退去強制を中心に」李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化 II　脱植民地化編』法政大学出版局.
古賀光生，2005，「現代ヨーロッパにおける、いわゆる『極右』政党の台頭の分析——オーストリア自由党の事例を中心として」『本郷法政紀要』14 号.
————，2008，「『カリスマ』の誕生——現代西欧の極右政党における指導者権力の拡大過程」日本比較政治学会編『リーダーシップの比較政治学』早稲田大学出版会.
————，2009，「脱クライエンテリズム期における選挙市場の比較分析——西欧極右政党の動員戦略を通じて」『年報政治学 政治における暴力』木鐸社.
高賛侑，2014，「在日韓国・朝鮮人から見る排外主義と共生の展望」『日本の科学者』49 巻 12 号.
小浜逸郎，2015，「『右翼』『排外主義』レッテル貼りに狂奔する左翼運動」『正論』517 号.
Kolinsky, Eva, 1992, "A Future for Right Extremism in Germany?" Paul Hainsworth ed., *The*

Extreme Right in Europe and the USA, London: Pinter.
駒込武，1996,『植民地帝国日本の文化統合』岩波書店.
駒井洋・渡戸一郎編，1997,『自治体の外国人政策』明石書店.
近藤敦，1996a,『「外国人」の参政権』明石書店.
————，1996b,『外国人参政権と国籍』明石書店.
————，2000,「永住外国人の地方参政権をめぐる最近の論点」『法学セミナー』552 号.
近藤瑠漫・谷崎晃編, 2007,『ネット右翼とサブカル民主主義——マイデモクラシー症候群』三一書房.
Koopmans, Ruud, 1995, *Democracy from Below: New Social Movements and the Political System in West Germany*, Boulder: Westview Press.
————, 1996, "Explaining the Rise of Racist and Extreme Right Violence in Western Europe: Grievances or Opportunities," *European Journal of Political Research,* 30: 185-216.
———— and Paul Statham, 1999, "Ethnic and Civic Competitions of Nationhood and the Differentiated Success of the Extreme Right in Germany and Italy," Marco Giugni, Doug McAdam and Charles Tilly eds., *How Social Movements Matter*, Minneapolis: University of Minnesota Press.
———— and Susan Olzak, 2004, "Discursive Opportunities and the Evolution of Right-wing Violence in Germany," *American Journal of Sociology,* 119(1): 198-230.
————, Paul Statham, Marco Giugni and Florence Passy, 2005, *Contested Citizenship: Immigration and Cultural Diversity in Europe*, Minneapolis: University of Minnesota Press.
———— and Jasper Muis, 2009, "The Rise of Right-Wing Populist Pim Fortuyn in the Netherlands: A Discursive Opportunity Approach," *European Journal of Political Research*, 48: 642-664.
Kornhauser, William, 1959, *The Politics of Mass Society,* Free Press.（＝1961，辻村明訳『大衆社会の政治』東京創元社.）
古関彰一，2010,「帝国臣民から外国人へ——与えられ、奪われてきた朝鮮人・台湾人の参政権」『世界』809 号.
上瀧浩子，2014,「朝鮮学校に対する襲撃事件と控訴審判決について」『日本の科学者』49 巻 12 号.
高藤昭，1991,「外国人労働者と我が国の社会保障法制」社会保障研究所編『外国人労働者と社会保障』東京大学出版会.
Krause, Keith, 1998, "Critical Theories and Security Studies: The Research Programme of 'Critical Security Studies,'" *Cooperation and Conflict,* 33(3): 298-333.
———— and Michael C. Williams eds., 1997, *Critical Security Studies: Concepts and Cases,* Minneapolis: University of Minnesota Press.
Kriesi, Hanspeter, 1999, "Movements of the Left, Movements of the Right: Putting the Mobilization of Two New Types of Social Movements into Political Context," Herbert Kitschelt et al. eds., *Continuity and Change in Contemporary Capitalism,* Cambridge: Cambridge University Press.
———— et al., 1995, *New Social Movements in Western Europe: A Comparative Analysis,* London: UCL Press.
具裕珍，2009,「『新しい歴史教科書をつくる会』の Exit, Voice, Loyalty——東アジア国際関

係への含意を中心に」『相関社会科学』19 号.
倉真一, 2006,「保守系オピニオン誌における外国人言説(1)――1990 年代までの雑誌『SAPIO』を中心に」『宮崎公立大学人文学部紀要』14 巻 1 号.
――――, 2008,「保守系オピニオン誌における外国人言説(2)――1990 年代後半における雑誌『SAPIO』を中心に」『宮崎公立大学人文学部紀要』15 巻 1 号.
――――, 2009,「保守系オピニオン誌における外国人言説(3)――2000 年代における雑誌『SAPIO』を中心に」『宮崎公立大学人文学部紀要』16 巻 1 号.
黒田勇, 2003,「日韓ワールドカップとメディア」『スポーツ社会学研究』11 号.
黒い彗星 Che★Gewald, 2010,「浮遊するシニシズム――インターネットにおける排外主義とカウンターの可能性」『インパクション』174 号.
黒沢文貴・イアン・ニッシュ編, 2011,『歴史と和解』東京大学出版会.
楠本孝, 2011,「在特会事件判決の意義と限界」『法と民主主義』464 号.
権赫泰, 2005,「日韓関係と『連帯』の問題」『現代思想』33 巻 6 号.
Lavenex, Sandra and Emek M. Uçaper, 2002, *Migration and the Externalities of European Integration,* Lanham: Lexington Books.
Layton-Henry, Zig, 1990, "The Challenge of Political Rights," Zig Layton-Henry ed., *The Political Rights of Migrant Workers in Western Europe*, London: Sage.
Le Bon, Gustave, 1895, *Psychologie des Foules*, Alcan.（＝1993, 櫻井成夫訳『群集心理』講談社.）
李鍾元, 1996, 『東アジア冷戦と韓米日関係』東京大学出版会.
――――・木宮正史・浅野豊美編, 2011,『歴史としての日韓国交正常化 II　脱植民地化編』法政大学出版局.
李英和, 1993,『在日韓国・朝鮮人と参政権』明石書店.
Léonard, Sarah, 2010, "EU Border Security and Migration into the European Union: FRONTEX and Securitisation through Practices," *European Security*, 19:231-254.
Lie, John, 2008, *Zainichi (Koreans in Japan): Diasporic Nationalism and Postcolonial Identity,* Berkeley: University of California Press.
Linden, Annette and Bert Klandermans, 2006a, "The Netherlands: Stigmatized Outsiders," Bert Klandermans and Nonna Mayer eds., *Extreme Right Activists in Europe: Through the Magnifying Glass*, London: Routledge.
――――, 2006b, "Stigmatization and Repression of Extreme-Right Activism in the Netherlands," *Mobilization,* 11(2): 213-228.
――――, 2007, "Revolutionaries, Wanderers, Converts, and Compliants: Life Histories of Extreme Right Activists," *Journal of Contemporary Ethnography,* 36(2): 184-200.
Lipset, Seymour Martin, 1959, *Political Man: The Social Bases of Politics,* Doublday.（＝1963, 内山秀夫訳『政治のなかの人間――ポリティカル・マン』東京創元新社.）
Lloyd, Cathie, 1998, "Antiracist Mobilization in France and Britain in the 1970s and 1980s," Danièle Joly ed., *Scapegoats and Social Actors: The Exclusion and Integration of Minorities in Western and Eastern Europe*, Basingstoke: Macmillan.
ラバーズ、マルセル, 2010,「同化主義へと突き進むオランダ――極右政党の躍進の背後に

あるもの」『Migrant's ネット』127 号.
Lubbers, Marcel, Merove Gijsberts and Peer Scheepers, 2002, "Extreme Right-Wing Voting in Western Europe," *European Journal of Political Research,* 41: 345-378.
Lubbers, Marcel and Ayse Güveli, 2007, "Voting LPF: Stratification and the Varying Importance of Attitudes," *Journal of Elections, Public Opinion & Parties*, 17(1): 21-47.
Lubbers, Marcel and Peer Scheepers, 2000, "Individual and Contextual Characteristics of the German Extreme Right-Wing Vote in the 1990s: A Test of Complementary Theories," *European Journal of Political Research,* 38: 63-94.
Lubbers, Marcel and Peer Scheepers, 2001, "Explaining the Trends in Extreme Right-Wing Voting: Germany 1989-1998," *European Sociological Review,* 17: 431-449.
Lubbers, Marcel and Peer Scheepers, 2002, "French Front National Voting: A Micro and Macro Perspective," *Ethnic and Racial Studies,* 25(1): 120-149.
Lubbers, Marcel and Peer Scheepers, 2005, "Political versus Instrumental Euro-scepticism: Mapping Scepticism in European Countries and Regions," *European Union Politics,* 6(2): 223-242.
Lubbers, Marcel, Peer Scheepers and Jaak Billet, 2000, "Multilevel Modeling of Vlaams Blok Voting: Individual and Contextual Characteristics of the Vlaams Blok Vote," *Acta Politica,* 35(4): 363-398.
町村敬志，1999,「グローバル化と都市――なぜイラン人はたまり場を作ったのか」奥田道大編『講座社会学 都市』東京大学出版会.
前田朗，2010,『ヘイト・クライム――憎悪犯罪が日本を滅ぼす』三一書房労働組合.
――――，2011,「ヘイト･クライム法研究の現在――人種差別撤廃委員会第 77 会期情報の紹介」村井敏邦先生古稀祝賀論集『人権の刑事法学』日本評論社.
――――，2012,「ヘイト･クライム法研究の射程――人種差別撤廃委員会第 79 会期情報の紹介」『龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報』2 号.
――――編，2013,『なぜ、いまヘイトスピーチなのか――差別、暴力、脅迫、迫害』三一書房.
前田雅英，2003,『日本の治安は再生できるか』筑摩書房.
前田至剛，2004,「現実から物語へ／物語から現実へ」阿部潔・難波功士編『メディア文化を読み解く技法――カルチュラル・スタディーズ・ジャパン』世界思想社.
前田哲男，2007,『自衛隊――変容のゆくえ』岩波書店.
Mammone, Andrea, Emmanuel Godin and Brian Jenkins, 2013, "Introduction," Andrea Mammone, Emmanuel Godin and Brian Jenkins eds., *Varieties of Right-wing Extremism in Europe,* London: Routledge.
Martinez Jr., Ramiro and Abel Valenzuela Jr. eds., 2006, *Immigration and Crime: Race, Ethnicity and Violence*, New York: New York University Press.
Massey, Douglas S., Jorge Durand and Nolan J. Malone, 2002, *Beyond Smoke and Mirrors: Mexican Immigration in an Era of Economic Integration*, New York: Russell Sage Foundation.
松田良孝，2013,『与那国台湾往来記――「国境」に暮らす人々』南山舎.
松本邦彦，2012,「多文化共生論と歴史認識――『嫌韓流』の挑戦を考察する」『北東アジア地域研究』18 号.

松本康，1985，「相対的剥奪と社会運動――相対的剥奪論の再生は可能か」『思想』737 号.
松谷満，2011，「ポピュリズムの台頭とその源泉」『世界』815 号.
――――，2012，「誰が橋下を支持しているのか」『世界』832 号.
――――・高木竜輔・丸山真央・村瀬博志・樋口直人，2005，「『受け入れ』と『統合』をめぐる社会意識――何が外国人問題への態度を規定するのか」『アジア太平洋レビュー』2 号.
――――・高木竜輔・丸山真央・樋口直人，2006，「日本版極右はいかにして受容されるのか――石原慎太郎・東京都知事の支持基盤をめぐって」『アジア太平洋レビュー』3 号.
松浦雄介，2005，「フランスにおける国民戦線の台頭と社会システムの変容」『熊本大学文学部論叢』85 号.
Maxwell, Rahsaan, 2010 "Political Participation in France among Non-European-Origin Migrants: Segregation or Integration?" *Journal of Ethnic and Migration Studies*, 36: 425-443.
Mayer, Nonna and Pascal Perrineau, 1992, "Why Do They Vote for Le Pen?" *European Journal of Political Research,* 22: 123-141.
McAdam, Doug, 1982, *Political Process and the Development of Black Insurgency, 1930-1970,* Chicago: University of Chicago Press.
――――, 1986, "Recruitment to High-Risk Activism: The Case of Freedom Summer," *American Journal of Sociology,* 92(1): 64-90.
――――, 1988a, "Micromobilization Contexts and Recruitment to Activism," *International Social Movement Research,* 1: 125-154.
――――, 1988b, *Freedom Summer,* New York: Oxford University Press.
――――, 1994, "Culture and Social Movements," Enrique Laraña, Hank Johnston and Joseph R. Gusfield eds., *New Social Movements: From Ideology to Identity,* Philadelphia: Temple University Press.
――――, 1996, "Conceptual Origins, Problems, Future Directions," Doug McAdam, John D. McCarthy and Mayer N. Zald eds., *Comparative Perspectives on Social Movements: Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framings*, Cambridge: Cambridge University Press.
―――― and Roberto M. Fernandez, 1990, "Microstructural Bases of Recruitment to Social Movements," *Research in Social Movements, Conflict and Change*, 12: 1-33.
―――― and Ronnelle Paulsen, 1993, "Specifying the Relationship between Social Ties and Activism," *American Journal of Sociology,* 99(3): 640-667.
――――, John D. McCarthy and Mayer N. Zald, 1996, "Introduction: Opportunities, Mobilizing Structures, and Framing Processes," Doug McAdam, John D. McCarthy and Mayer N. Zald eds., *Comparative Perspectives on Social Movements: Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framings*, Cambridge: Cambridge University Press.
McCammon, Holly J., Courtney Sanders Muse, Harmony D. Newman and Teresa M. Terell, 2007, "Movement Framing and Discursive Opportunity Structures: The Political Success of the U.S. Women's Jury Movements," *American Sociological Review*, 72: 725-749.
McCarthy, John D. and Mayer N. Zald, 1987, *Social Movements in an Organizational Society*,

Piscataway: Transaction.

McCombos, Maxwell and Jian-Hua Zhu, 1995, "Capacity, Diversity, and Volatility of the Public Agenda: Trends from 1954 to 1994," *Public Opinion Quarterly*, 59: 495-525.

McDonald, Maryon, 2006, "'New Nationalisms in the EU: Occupying the Available Space," Andre Gingrich and Marcus Banks eds., *Neo-Nationalism in Europe and Beyond: Perspectives from Social Anthropology*, New York: Berghahn Books.

McGann, Anthony J. and Herbert Kitschelt, 2005, "The Radical Right in the Alps: Evolution of Support for the Swiss SVP and Austrian FPÖ," *Party Politics,* 11(2): 147-171.

McMurray, David A., 2001, *In & out of Morocco: Smuggling and Migration in a Frontier Boomtown,* Minneapolis: University of Minnesota Press.

McSweeney, Bill, 1996, "Identity and Security: Buzan and the Copenhagen School," *Review of International Studies*, 22(1): 81-93.

McVeigh, Rory, 2009, *The Rise of the Ku Klux Klan: Right-Wing Movements and National Politics,* Minneapolis: University of Minnesota Press.

————, Daniel J. Myers, and David Sikkink, 2004, "Corn, Klansmen, and Coolidge: Structure and Framing in Social Movements," *Social Forces,* 83: 653-90.

Meguid, Bonnie, 2005, "Competition between Unequals: The Role of Mainstream Party Strategy in Niche Party Success," *American Political Science Review,* 99(3): 347-358.

Merkl, Peter, 2004, "Why Are They So Strong Now? Comparative Reflections on the Revival of the Radical Right in Europe," Peter Merkl and Leonard Weingberg eds., *The Revival of Right-Wing Extremism in the Nineties,* London: Frank Cass.

Michael, George, 2003, *Confronting Right-Wing Extremism and Terrorism in the USA,* London: Routledge.

Mileti, Francesca Poglia and Fabrice Plomb, 2007, "Addressing the Link between Socio-Economic Change and Right-Wing Populism and Extremism: A Critical Review of the Literature," Jörg Flecker ed., *Changing Working Life and the Appeal of the Extreme Right*, Aldershot: Ashgate.

Miller-Idriss, Cynthia, 2009, *Blood and Culture: Youth, Right-Wing Extremism, and National Belonging in Contemporary Germany*, Durham: Duke University Press.

Minkenberg, Michael, 2001, "The Radical Right in Public Office: Agenda-Setting and Policy Effects," *West European Politics*, 24(4): 1-21.

————, 2002, "The New Radical Right in the Political Process: Interaction Effects in France and Germany." Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe,* New York: Palgrave Macmillan.

————, 2009, "Anti-Immigrant Politics in Europe: The Radical Right, Xenophobic Tendencies, and Their Political Environment," Jennifer L. Hochschild and John H. Mollenkopf eds., *Bringing Outsiders in: Transatlantic Perspectives on Immigrant Political Incorpoation,* Ithaca: Cornell University Press.

————, 2013, "From Pariah to Policy-maker? The Radical Right in Europe, West and East: Between Margin and Mainstream," *Journal of Contemporary European Studies*, 21(1): 5-24.

民族差別と闘う関東交流集会実行委員会編，1985,『指紋押捺拒否者への「脅迫状」を読む』明石書店.
民族差別と闘う連絡協議会，1985,『第 11 回民闘連全国交流集会資料集』.
————編，1989,『在日韓国・朝鮮人の補償・人権法』新幹社.
三荻祥，2012,『脅かされる国境の島・与那国——尖閣だけが危機ではない！』明成社.
三品純，2010,「外国人参政権に潜む日本支配のシナリオ——政治に影響力を持つ在日韓国人と左翼の不気味な動き」『正論』455 号.
宮島喬編，2000,『外国人市民と政治参加』有信堂.
————・梶田孝道編，1996,『外国人労働者から市民へ』有斐閣.
宮本太郎, 2013,『社会的包摂の政治学——自立と承認をめぐる政治対抗』ミネルヴァ書房.
宮内洋，2005,『体験と経験のフィールドワーク』北大路書房.
溝口雄三，2005,「反日デモ——どういう歴史の目で見るか」『現代思想』33 巻 6 号.
水野直樹，1996,「在日朝鮮人台湾人参政権『停止』条項の成立——在日朝鮮人参政権問題の歴史的検討(1)」『世界人権問題研究センター研究紀要』1 号.
————，1997,「在日朝鮮人台湾人参政権『停止』条項の成立——在日朝鮮人参政権問題の歴史的検討(2)」『世界人権問題研究センター研究紀要』2 号.
百地章, 2010,『改訂版 外国人の参政権問題 Q&A——地方選挙権付与も憲法違反』明成社.
Morales, Laura and Marco Giugni eds., 2011, *Social Capital, Political Participation and Migration in Europe: Making Multicultural Democracy Work?* London: Palgrave Macmillan.
森千香子，2010,「反レイシズムはレイシズムを乗り越えられるのか？——フランス反レイシズムの現在と課題」『Migrant's ネット』127 号.
————，2014,「反ヘイトスピーチ法はレイシズムを抑えられるのか？——フランスのイスラモフォビアの事例から」『日本の科学者』49 巻 12 号.
森鷹久，2013a,「不毛な争い　在特会 vs しばき隊」『WiLL』103 号.
————，2013b,「新大久保『反韓デモ』レポート」『ジャパニズム』12 号.
森内航平，2012,「右翼運動の展望」『治安フォーラム』18 巻 4 号.
守安敏司，2012,「差別街宣は許さない！——水平社博物館が『在特会』幹部を提訴」『部落解放』661 号.
師岡康子，2012,「人種･民族差別禁止法の意義——日本における制定に向けて」『法学セミナー』57 巻 3 号.
————，2013a,「国際人権基準からみたヘイト・スピーチ規制問題」『世界』848 号.
————，2013b,『ヘイト・スピーチとは何か』岩波書店.
————，2014,「包括的人種差別禁止法制定に向けて——国連人種差別撤廃委員会勧告の意義」『世界』862 号.
モーリス＝スズキ、テッサ，2005，辛島理人訳「占領軍への有害な行動——敗戦後日本における移民管理と在日朝鮮人」岩崎稔・大川正彦・中野敏男・李孝徳編『継続する植民地主義——ジェンダー／民族／人種／階級』青弓社.
Morris-Suzuki, Tessa, 2007, *Exodus to North Korea: Shadows from Japan's Cold War*, Rowman & Littlefield.（＝2007，田代泰子訳『北朝鮮へのエクソダス——「帰国事業」の影をたどる』朝日新聞社.）

————, 2010, *Borderline Japan: Foreigners and Frontier Controls in the Postwar Era,* Cambridge: Cambridge University Press.
Moulier-Boutang, Yann, 1985, "Resistance to the Political Representation of Alien Populations: The European Paradox," *International Migration Review*, 19: 485-492.
Mudde, Cas, 2000, *The Ideology of the Extreme Right,* Manchester: Manchester University Press.
————, 2007, *Populist Radical Right Parties in Europe,* Cambridge: Cambridge University Press.
————, 2010, "The Populist Radical Right: A Pathological Normalcy," *West European Politics*, 33(6): 1167-1186.
————, 2013, "Three Decades of Populist Radical Right Parties in Western Europe: So what?" *European Journal of Political Research,* 52: 1-19.
———— ed., 2014, *Youth and the Extreme Right,* New York: IDEBATE Press.
Mughan, Anthony and Pamela Paxton, 2006, "Anti-Immigrant Sentiment, Policy Preferences and Populist Party Voting in Australia," *British Journal of Political Science,* 36: 341-358.
文京洙，2007,『在日朝鮮人問題の起源』クレイン.
Munro, Daniel, 2008, "Integration Through Participation: Non-Citizen Resident Voting Rights in an Era of Globalization," *Journal of International Migration and Integration*, 9: 63-80.
村井淳志，1997a，『歴史認識と授業改革』教育史料出版会.
————，1997b，「自由主義史観研究会の教師たち——現場教師への聞き取り調査から」『世界』633 号.
村上力，2009,「『行動する保守』とは何か——街頭で活発化している『嫌韓』的市民運動の実態」『インパクション』171 号.
————，2010,「日本ナショナリズムの現在——現在進行形の植民地主義」『インパクション』174 号.
村上和弘，2007,「インターネットの中のツシマ——ある『嫌韓』現象をめぐって」石田佐恵子・木村幹・山中千恵編『ポスト韓流のメディア社会学』ミネルヴァ書房.
村田春樹，2015,『日本乗っ取りはまず地方から！——恐るべき自治基本条例』青林堂.
Mushaben, Joyce Marie, 2008, *The Changing Face of Citizenship: Integration and Mobilization among Ethnic Minorities in Germany,* New York: Berghahn Books.
長尾一紘，2000,『外国人の参政権』世界思想社.
————，2010,「外国人参政権は『明らかに違憲』」『正論』458 号.
————，2011,『日本国憲法　全訂第 4 版』世界思想社.
永吉希久子，2012,「日本人の排外意識に対する分断労働市場の影響」『社会学評論』63 巻 1 号.
中川八洋，1996,「『国籍条項』撤廃という『反日』運動——"非国民"たちの公務員権・参政権は『無血侵略』」『正論』292 号.
仲原良二，1993,『在日韓国・朝鮮人の就職差別と国籍条項』明石書店.
中村一成，2013a,「ヘイトクライムに抗して——ルポ・京都朝鮮第一初級学校襲撃事件」『世界』845 号.
————，2013b,「ヘイトクライムに抗して（2)」『世界』846 号.
————，2013c,「ヘイトクライムに抗して（3)」『世界』847 号.

————，2014,『ルポ京都朝鮮学校襲撃事件——〈ヘイトクライム〉に抗して』岩波書店.
中西新太郎，2006,「ポップカルチャーと政治　開花する『J ナショナリズム』——『嫌韓流』をテクストに」『世界』749 号.
中西輝政，2007,「『9・17 の誓い』と日本の覚醒」『諸君！』39 巻 10 号.
仲新城誠，2013,『国境の島の「反日」教科書キャンペーン——沖縄と八重山の無法イデオロギー』産経新聞出版.
中山義隆，2013,『中国が耳をふさぐ尖閣諸島の不都合な真実——石垣市長が語る日本外交の在るべき姿』ワニブックス.
中澤秀雄・成元哲・樋口直人・角一典・水澤弘光，1998,「環境運動における抗議サイクル形成の論理——構造的ストレーンと政治的機会構造の比較分析（1968-82）」『環境社会学研究』4 号.
直井道子，1972a,「政治的社会化過程における集団の役割」『社会学評論』22 巻 3 号.
————，1972b,「政治的社会化過程における集団の役割(2)」『社会学評論』23 巻 1 号.
Nepstad, Sharon Erickson, 1997, “The Process of Cognitive Liberation: Cultural Synapses, Links, and Frame Contradictions in the U.S.-Central America Peace Movement,” *Sociological Inquiry,* 67(4): 470-487.
Nevitt, Neil et al., 1998, “The Populist Right in Canada: The Rise of the Reform Party of Canada,” Hans-Georg Betz and Stefan Immerfall eds., *The New Politics of the Right: Neo-Populist Parties and Movements in Established Democracies,* New York: St. Martin’s Press.
日本女性学会ジェンダー研究会編，2006,『男女共同参画／ジェンダーフリー・バッシング——バックラッシュへの徹底反論』明石書店.
西村幸祐編，2010,『撃論ムック　外国人参政権の真実』オークラ出版.
————・安田浩一，2013,「『ネトウヨ亡国論』に異議あり！」『WiLL』98 号.
西野瑠美子，1999,『エルクラノはなぜ殺されたのか』明石書店.
西尾幹二，2010,「外国人参政権——オランダ、ドイツの惨状」『WiLL』64 号.
丹羽雅雄，1995,「在日韓国･朝鮮人の地方参政権」『青丘』22 号.
————，2011,「特別永住者には、国政選挙権も保障すべき」『部落解放』644 号.
Noakes, John A. and Hank Johnston, 2005, “Frames of Protest: A Road Map to a Perspective,” Hank Johnston and John A. Noakes eds., *Frames of Protest: Social Movements and the Framing Perspective,* Lanham: Rowman & Littlefield.
Noiehoie，2013,『保守の本分』扶桑社.
野間易通, 2013,「社会の変革を妨げるものは何か？——反レイシズム運動の“出る杭を打つ”もの」磯部涼編『踊ってはいけない国で、踊り続けるために——風営法問題と社会の変え方』河出書房新社.
————，2013,『「在日特権」の虚構——ネット空間が生み出したヘイト・スピーチ』河出書房新社.
のりこえねっと編，2014,『ヘイトスピーチってなに？　レイシズムってどんなこと？』七つ森書館.
Norris, Pippa, 2005, *Radical Right: Voters and Parties in the Electoral Market,* Cambridge: Cambridge University Press.

Oberschall, Anthony, 1972, *Social Conflict and Social Movements,* New Jersey: Prentice Hall.
————, 1993, *Social Movements: Ideologies, Interests, and Identities,* New Brunswick: Transaction.
Oegema, Dirk and Bert Klandermans, 1994, "Why Social Movement Sympathizers Don't Participate: Erosion and Nonconversion of Support," *American Sociological Review,* 59(5): 703-22.
Oesch, Daniel, 2008, "Explaining Workers' Support for Right-Wing Populist Parties in Western Europe: Evidence from Austria, Belgium, France, Norway, and Switzerland," *International Political Science Review,* 29: 349-373.
————, 2012, "The Class Basis of the Cleavage between the New Left and the Radical Right: An Analysis for Austria, Denmark, Norway and Switzerland," Jens Rydgren ed., *Class Politics and the Radical Right,* London: Routledge.
小熊英二，1995,『単一民族神話の起源――〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社.
————，1998,『<日本人>の境界――沖縄・アイヌ・台湾･朝鮮　植民地支配から復帰運動まで』新曜社.
————，2014,「国際環境とナショナリズム――『フォーマット化』と疑似冷戦体制」小熊英二編『平成史　【増補新版】』河出書房新社.
————･上野陽子，2003,『<癒し>のナショナリズム――草の根保守運動の実証研究』慶應義塾大学出版会.
————・菅原琢・韓東賢，2013,「変化の手前にある現在――2013 年の時代経験」『現代思想』41 巻 17 号.
Oh, Ingyu, 2012, "From Nationalistic Diaspora to Transnational Diaspora: The Evolution of Identity Crisis among the Korean-Japanese," *Journal of Ethnic and Migration Studies,* 38(4): 651-669.
岡和田晃・マーク・ウィンチェスター編，2015,『アイヌ民族否定論に抗する』河出書房新社.
岡本雅享，2013,「金泰希バッシングとロート製薬攻撃――コリアノフォビアに基づく排韓運動」外国人人権法連絡会編『外国人・民族的マイノリティ人権白書 2013』外国人人権法連絡会.
岡村忠夫，1971,「現代日本における政治的社会化――政治意識の培養と政治家像」『年報政治学　現代日本における政治態度の形成と構造』岩波書店.
沖縄タイムス「尖閣」取材班編，2014,『波よ鎮まれ――尖閣への視座』旬報社.
奥貫妃文，2011,「労働法および社会保障法からみる移住者の貧困」移住連貧困プロジェクト編『日本で暮らす移住者の貧困』現代人文社.
Oliver, Pamela E. and Gerald Marwell, 1992, "Mobilizing Technologies for Collective Action," Aldon D. Morris and Carol M. Mueller eds., *Frontiers in Social Movement Theory*, New Haven: Yale University Press.
Olson, Mancur, 1965, *The Logic of Collective Action,* Harvard University Press.（=1996，依田博・森脇俊雄訳『集合行為論』ミネルヴァ書房.）
Olzak, Suzan, 1992, *The Dynamics of Ethnic Competition and Conflict,* Stanford: Stanford University Press.
———— and Joane Nagel eds., 1986, *Competitive Ethnic Relations*, Orland: Academic Press.

大曲由起子・髙谷幸・鍛治致・稲葉奈々子・樋口直人，2011a,「在日外国人の仕事――2000年国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44号.
――――，2011b,「家族・ジェンダーからみる在日外国人――国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44号.
――――，2011c,「在学率と通学率から見る在日外国人青少年の教育――2000年国勢調査データの分析から」『アジア太平洋研究センター年報』7号.
大曲由起子・髙谷幸・樋口直人・鍛治致・稲葉奈々子，2012,「『移住者と貧困』をめぐるアドボカシー――移住連貧困プロジェクトの取り組みから」『多言語・多文化――実践と研究』4 号.
大沼保昭，1979a,「在日朝鮮人の法的地位に関する一考察(1)」『法学協会雑誌』96 巻 3 号.
――――，1979b,「在日朝鮮人の法的地位に関する一考察(2)」『法学協会雑誌』96 巻 5 号.
――――，1979c,「在日朝鮮人の法的地位に関する一考察(3)」『法学協会雑誌』96 巻 8 号.
――――，1980a,「在日朝鮮人の法的地位に関する一考察(4)」『法学協会雑誌』97 巻 2 号.
――――，1980b,「在日朝鮮人の法的地位に関する一考察(5)」『法学協会雑誌』97 巻 3 号.
――――，1980c,「在日朝鮮人の法的地位に関する一考察(6)」『法学協会雑誌』97 巻 4 号.
――――，1993,『新版　単一民族社会の神話を超えて』東信堂.
Opp, Karl-Dieter, 1988, “Grievances and Participation in Social Movements,” *American Sociological Review,* 53: 853-864.
――――― and Wolfgang Roehl, 1990, “Repression, Micromobilization, and Political Protest,” *Social Forces*, 69(2): 521-547.
――――, Peter Voss and Christiane Gern, 1995, *Origins of a Spontaneous Revolution: East Germany, 1989*, Ann Arbor: University of Michigan Press.
大澤真幸，2008,『不可能性の時代』岩波書店.
――――，2011,『近代日本のナショナリズム』講談社.
大田修ほか，2006,『「マンガ嫌韓流」のここがデタラメ』コモンズ.
大嶽秀夫，1996,『戦後日本のイデオロギー対立』三一書房.
大月隆寛，2005,「『嫌韓流』は『ゴー宣』よりスゴイんです」『諸君！』37 巻 10 号.
小沢有作，1974,「民族差別の教育を告発するもの――朝鮮高校生暴行事件における政治と教育」佐藤勝巳編『在日朝鮮人の諸問題』同成社.
Pain, Rachel and Susan J. Smith eds., 2008, *Fear: Critical Geopolitics and Everyday Life,* Aldershot: Ashgate.
Pak, Katheryne Tagmayer, 2000a, “Living in Harmony: Prospects for Cooperative Local Responses to Foreign Migrants,” S. A. Smith ed., *Local Voices, National Issues: The Impact of Local Initiative in Japanese Policy-Making*, Ann Arbor: Center for Japanese Studies, the University of Michigan.
――――, 2000b, “Foreigners Are Local Citizens too: Local Governments Respond to International Migration in Japan,” M. Douglass and G. S. Roberts eds., *Japan and Global Migration: Foreign Workers and the Advent of a Multicultural Society,* London: Routledge.
朴一，1999,『<在日>という生き方――差異と平等のジレンマ』講談社.

————，2005，「在日コリアンの経済事情」藤原書店編集部編『歴史のなかの「在日」』藤原書店.
————，2011，「『内への開国』を期待する」『部落解放』644 号.
朴慶植，1989，『解放後　在日朝鮮人運動史』三一書房.
Pauwels, Teun, 2014, *Populism in Western Europe: Comparing Belgium, Germany and the Netherlands,* London: Routledge.
Pedroza, Luicy, forthcoming, "The Democratic Potential of Enfranchising Resident Migrants," *International Migration* (doi: 10.1111/imig.12162).
Pelinka, Anton, 2013, "Right-wing Populism: Concept and Typology," Ruth Wodak, Majid KhosraviNik and Brigitte Mral eds., *Right-wing Populism in Europe: Politics and Discourse,* London: Bloomsbury.
Perlmutter, Ted, 2002, "The Politics of Restriction: The Effect of Xenophobic Parties on Italian Immigration Policy and German Asylum Policy," Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe*, New York: Palgrave Macmillan.
ペリノー、パスカル，2005，「ヨーロッパにおける極右とポピュリズム」『ノモス』17 号.
Peterson, Ruth, Lauren J. Krivo and John Hagan eds., 2006, *The Many Colors of Crime: Inequalities of Race, Ethnicity, and Crime in America*, New York: New York University Press.
Quassoli, Fabio, 2001, "Migrant as Criminal: The Judicial Treatment of Migrant Criminality," Christian Joppke and Virginia Guiraudon eds., *Controlling a New Migration World,* London: Routledge.
————, 2004, "Making the Neighbourhood Safer: Social Alarm, Police Practices and Immigrant Exclusion in Italy," *Journal of Ethnic and Migration Studies*, 30(6): 1163-81.
Quintelier, Ellen, 2009, "The Political Participation of Immigrant Youth in Belgium," *Journal of Ethnic and Migration Studies*, 35: 919-937.
Rajaram, Prem Kumar and Carl Grundy-Warr eds., 2007, *Borderscapes: Hidden Geographies and Politics at Territory's Edge*, Minneapolis: University of Minnesota Press.
Rainie, Lee and Barry Wellman, 2012, *Networked: The New Social Operating System,* Cambridge, MA: MIT Press.
Rath, Jan, 1990, "Voting Rights," Zig Layton-Henry ed., *The Political Rights of Migrant Workers in Western Europe*, London: Sage.
Ray, Beverley and George Marsh E., 2001, "Recruitment by Extremist Groups on the Internet," *First Monday,* 6(2): 1–26.
Reid, Edna and Hsinchen Chen, 2007, "Internet-Savvy U.S. and Middle Eastern Extremist Groups," *Mobilization,* 12(2): 177-192.
Riedlsperger, Max, 1998, "The Freedom Party of Austria: From Protest to Radical Right Populism," Hans-Georg Betz and Stefan Immerfall eds., *The New Politics of the Right: Neo-Populist Parties and Movements in Established Democracies,* New York: St. Martin's Press.
力久昌幸，2006，「帝国の変容と『外国人』参政権――イギリスにおける市民権変遷と参政権の関連に注目して」河原祐馬・植村和秀編『外国人参政権問題の国際比較』昭和堂.

————, 2009, 「ヨーロッパにおける極右政党――イギリス国民党の台頭と現代化プロジェクトに対する一考察」『同志社大学ワールド・ワイド・ビジネス・レビュー』10巻.

Rink, Nathalie, Karen Phalet and Marc Swyngedouw, 2009, "The Effect of Immigrant Population Size, Unemployment and Individual Characteristics on Voting for Vlaams Blok in Flanders 1991-1999," *European Sociological Review,* 25(4): 411-424.

Rippl, Susanne and Christian Seipel, 1999, "Gender Differences in Right Wing Extremism: Intergroup Validity of a Second-Order Construct," *Social Psychology Quarterly*, 62(4): 381-393.

盧琦霙，2011，「在日民団の本国指向路線と日韓交渉」李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化 II　脱植民地化編』法政大学出版局.

Robinson, Vaughan, 1998, "Security, Migration, and Refugees," Nana Poku and David T. Graham eds., *Redefining Security: Population Movements and National Security,* Westport: Praeger.

Rostbøll, Christian F., 2010, "The Use and Abuse of 'Universal Values' in the Danish Cartoon Controversy," *European Political Science Review*, 2(3): 401-422.

Rubio-Marín, R., 2000, *Immigration as a Democratic Challenge: Citizenship and Inclusion in Germany and the United States*, Cambridge: Cambridge University Press.

Rucht, Dieter and Thomas Ohlemacher, 1992, "Protest Event Data: Collection, Uses and Perspectives," Mario Diani and Ron Eyerman eds., *Studying Collective Action*, London: Sage.

Rucht, Dieter, Ruud Koopmans and Friedlich Neidhardt eds., 1998, *Acts of Dissent: New Developments in the Study of Protest*, Berlin: Sigma.

Ryang, Sonia, 1997, *North Koreans in Japan: Language, Ideology, and Identity*, Boulder: Westview Press.

————, 2000, "The North Korean Homeland of Koreans in Japan," Sonia Ryang ed., *Koreans in Japan: Critical Voices from the Margin*, New York: Routledge.

———— and John Lie, 2009, *Diaspora without Homeland: Being Koreans in Japan*, Berkeley: University of California Press.

Rydgren, Jens, 2003, "Meso-Level Reasons for Racism and Xenophobia: Some Converging and Diversing Effects of Radical Right Populism in France and Sweden," *European Journal of Social Theory*, 6(1): 45-68.

————, 2006, *From Tax Populism to Ethnic Nationalism: Radical Right-wing Populism in Sweden,* New York: Berghahn Books.

————, 2007, "The Sociology of the Radical Right," *Annual Review of Sociology,* 33: 241-62.

————, 2008, "Immigration Sceptics, Xenophobes or Racists? Radical Right-wing Voting in Six West European Countries," *European Journal of Political Research,* 47: 737–765.

————, 2009, "Social Isolation? Social Capital and Radical Right-wing Voting in Western Europe," *Journal of Civil Society*, 5(2): 129-150.

柳光守，1996，「同化につながる参政権に反対する」『同胞들의人権과生活』3 号.

佐道明広，2012，「南西諸島における自衛隊配備問題」『別冊 環』19 号.

————，2014，『沖縄現代政治史――「自立」をめぐる攻防』吉田書店.

Said, Edward W., 1993, *Culture and Imperialism,* Vintage.（＝1998，大橋洋一訳『文化と帝国主義 1』、2001，大橋洋一訳『文化と帝国主義 2』みすず書房．）

Sakaki, Alessandra, 2013, *Japan and Germany as Regional Actors*, London: Routledge.
坂本治也, 2012,「大阪ダブル選挙の分析――有権者の選択と大阪維新の会支持基盤の解明」『関西大学法学論集』62巻3号.
坂元ひろ子，2005,「中国の『反日』とどう向き合うか――アジアの練習のために」『現代思想』33 巻 6 号.
坂中英徳，1999,『在日韓国・朝鮮人政策論の展開』日本加除出版.
――――，2006,「在日は『朝鮮系日本国民』への道を」在日コリアンの日本国籍取得権確立協議会編『在日コリアンに権利としての日本国籍を』明石書店。
――――，2015,「移民国家で世界の頂点をめざす」『WiLL』121 号。
桜井誠，2006,『嫌韓流実践ハンドブック――反日妄言撃退マニュアル』晋遊舎.
――――，2010,『日本侵蝕――日本人の「敵」が企む亡国のシナリオ』晋遊舎.
――――，2013,『在特会とは「在日特権を許さない市民の会」の略称です！』青林堂.
――――，2014,『大嫌韓時代』青林堂.
櫻井よしこ，2000,「野中さん、国を売る気ですか！」『諸君！』32 巻 11 号.
Salter, Lee, 2003, "Democracy, New Social Movemens, and the Internet: A Habermasian Analysis," Martha McCaughey and Michael D. Ayers eds., *Cyberactivism: Online Activism in Theory and Practice,* London: Routledge.
Samuels, Richard J., 2007, *Securing Japan: Tokyo's Grand Strategy and the Future of East Asia,* Ithaca: Cornell University Press.
佐波優子，2013,『女子と愛国』祥伝社.
佐藤令，2008,「外国人参政権をめぐる論点」『人口減少社会の外国人問題』国立国会図書館調査資料.
佐藤大介，2013,「ヘイトスピーチの街で」『G2』14 号.
佐藤圭，2013,「差別の実態を浮かび上がらせ差別を乗り越えていく」『Journalism』282 号.
佐藤健二，1985，「社会運動研究における『大衆運動』モデル再検討の射程」『思想』737 号.
佐藤成基，2008,『ナショナル・アイデンティティと領土――戦後ドイツの東方国境をめぐる論争』新曜社.
Schain, Martin A., 2002, "The Impact of the French National Front on the French Political System," Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe,* New York: Palgrave Macmillan.
――――, 2006, "The Extreme-right and Immigration Policy-Making: Measuring Direct and Indirect Effects," *West European Politics*, 29(2): 270-289.
――――, Aristide Zolberg and Patric Hossay, 2002, "The Development of Radical Right Parties in Western Europe," Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe*, London: Palgrave.
Schgal, Meera, 2007, "Manufacturing a Feminized Siege Mentality: Hindu Nationalist Paramilitary Camps for Women in India," *Journal of Contemporary Ethnography,* 36(2): 165-183.
Schiebel, Martina, 2000, "Extreme Right Attitudes in the Biographies of West German Youth," Prue

Chamberlayne, Joanna Bornat and Tom Wengraf eds., *The Turn to Biographical Methods in Social Science: Comparative issues and Examples,* London: Routledge.

Schneider, Silke L., 2008, "Anti-Immigrant Attitudes in Europe: Outgroup Size and Perceived Ethnic Threat," *European Sociological Review,* 24(1): 53-67.

Sejersen, Tanja Brøndsted, 2008, "'I Vow to Thee My Countries': The Expansion of Dual Citizenship in the 21st Century," *International Migration Review*, 42(3): 523-549.

昔農英明，2014，『「移民国家ドイツ」の難民庇護政策』慶應義塾大学出版会.

Selznick, Philip, 1970, "Institutional Vulnerability in Mass Society," Joseph R. Gusfield ed., *Protest, Reform, and Revolt: A Reader in Social Movements*, New York: John Wiley and Sons.

Semyonov, Moshe, Rebeca Raijman, Anat Yom-Tov, 2002, "Labor Market Competition, Perceived Threat, and Endorsement of Economic Discriminationagainst Foreign Workers in Israel," *Social Problems,* 49(3): 416-431.

Semynov, Moche, Rebeca Raijman and Anastasia Gorodzeisky, 2006, "The Rise of Anti-foreigner Sentiment in European Societies, 1988-2000," *American Sociological Review*, 71: 426-449.

瀬戸弘幸，2000,『外国人犯罪』セントラル出版.

————，2007,『ネットが変える日本の政治』岩崎企画.

社会問題研究会編，1976,『右翼・民族派事典』国書刊行会.

Sharp, Joanne P., 2000, *Condensing the Cold War: Reader's Digest and American Identity,* Minneapolis: University of Minnesota Press.

清水謙，2013,「スウェーデンにおける『移民の安全保障化』――非伝統的安全保障における脅威認識形成」『国際政治』172 号.

申英子・熊野勝之，2007,『闇から光へ――同化政策と闘った指紋押捺拒否裁判』社会評論社.

塩原勉編，1989,『資源動員と組織戦略』新曜社.

白井聡，2013，『永続敗戦論――戦後日本の核心』大田出版.

東海林智，2013，『15 歳からの労働組合入門』毎日新聞社.

Shorter, Edward and Charles Tilly, 1974, *Strikes in France 1830-1968*, New York: Cambridge University Press.

Simon, Rita J. and Keri W. Sikich, 2007, "Public Attitudes toward Immigrants and Immigration Policies across Seven Nations*," International Migration Review,* 41(4): 956-962.

Skenderovic, Damir, 2007, "Immigration and the Radical Right in Switzerland: Ideology, Discourse and Opportunities," *Patterns of Prejudice*, 41(2): 155-176.

Smelser, Neil J., 1963, *Theory of Collective Behavior,* MacMillan.（＝1973，会田彰・木原孝訳『集合行動の理論』誠信書房.）

Smith, David J., 2002, "Framing the National Question in Central and Eastern Europe: A Quadratic Nexus?" *Global Review of Ethnopolitics,* 2(1): 3-16.

Snow, David, 2000, "Clarifying the Relationship between Framing and Ideology," *Mobilization*, 5(1): 55-60.

————, Louis A. Zurcher, Jr., Sheldon Ekland-Olson, 1980, "Social Networks and Social Movements: A Microstructural Approach to Differential Recruitment," *American Sociological*

Review, 45: 787-801.
――― et al., 1986, “Frame Alignment Processes, Micromobilization and Movement Participation,” *American Sociological Review,* 51:464-481.
――― and Robert D. Benford, 1988, “Ideology, Frame Resonance, and Participant Mobilization,” *International Social Movement Research,* 1: 197-217.
―――, 1992, “Master Frames and Cycles of Protest,” Aldon D. Morris and Carol M. Muller eds., *Frontiers in Social Movement Theory,* New Haven: Yale University Press.
Snyder, David and Charles Tilly, 1972, “Hardship and Collective Violence in France, 1830 to 1960,” *American Sociological Review,* 37: 520-532.
徐京植，1997,『分断を生きる――「在日」を超えて』影書房.
徐龍達，1987,「在日韓国・朝鮮人の人権擁護運動」徐龍達編『韓国・朝鮮人の現状と将来――「人権先進国・日本」への提言』社会評論社.
―――，2010,「アジア市民社会への道」『世界』803 号.
―――編，1992,『定住外国人の地方参政権』日本評論社.
―――編，1995,『共生社会への地方参政権』日本評論社.
徐元喆，2010,「住民としての権利保障をめざす外国人の地方参政権」『都市問題』101 巻 4 号.
―――，2011a「原点に立ち返り、地域からの運動を――永住外国人の地方参政権を求める」『部落解放』644 号.
―――，2011b,「永住外国人の地方参政権を考える」『平和運動』483 号.
Söderberg, Marie, 2011a, “Introduction: Japan-South Korea Relations at a Crossroads,” Marie Söderberg ed., *Changing Power Relations in Northeast Asia: Implications for Relations between Japan and South Korea,* London: Routledge.
――――, 2011b, “The Struggle for a Decent Life in Japan: the Korean Minority Adapting to Changing Legal and Political Conditions,” Marie Söderberg ed., *Changing Power Relations in Northeast Asia: Implications for Relations between Japan and South Korea,* London: Routledge.
双風舎編集部編，2006,『バックラッシュ！――なぜジェンダーフリーは叩かれたのか？』双風舎.
総務省統計局，2004,『平成 12 年国勢調査報告第 8 巻　外国人に関する特別集計結果』.
宋基燦，2012,『「語られないもの」としての朝鮮学校――在日民族教育とアイデンティティ・ポリティクス』岩波書店.
Song, Sarah, 2009, “Democracy and Noncitizen Voting Rights,” *Citizenship Studies*, 13(6): 607-620.
Soysal, Yasemin N., 1994, *Limits of Citizenship: Migrants and Postnational Membership in Europe*, Chicago: University of Chicago Press.
Spanje, Joost Van and Wouter Van der Brug, 2009, “Being Intolerant of the Intolerant: The Exclusion of Western European Anti-Immigration Parties and Its Consequences for Party Choice,” *Acta Politica,* 44: 353-384.
Stalker, Glenn J. and Lesley J. Wood, 2013, “Reaching Beyond the Net: Political Circuits and Participation in Toronto's G20 Protests,” *Social Movement Studies*, 12(2): 178-198.
Steinberg, Marc W., 1999, “The Talk and Back Talk of Collective Action: A Dialogic Analysis of

Repertoires of Discourse among Nineteenth-Century English Cotton Spinners," *American Journal of Sociology*, 105: 736-780.

Stiflung, Bertelsmann ed., 2007, *Strategies for Combating Right-wing Extremism in Europe,* Gütersloh: Verlag Bertelsmann Stiftung.

菅原琢，2009,『世論の曲解――なぜ自民党は大敗したのか』光文社.

Sugimoto, Yoshio, 1981, *Popular Disturbance in Postwar Japan*, Hong Kong: Asian Research Service.

成元哲，2001,「モラル・プロテストとしての環境運動――ダイオキシン問題に係わるある農家の自己アイデンティティ」長谷川公一編『環境運動と環境政策のダイナミズム』有斐閣.

――――・角一典，1998,「政治的機会構造論の理論射程――運動をめぐる政治環境はどこまで操作化できるのか」『ソシオロゴス』22 号.

Sunier, Thijl and Rob van Ginkel, 2006, "'At Your Service!' Reflections on the Rise of Neo-Nationalism in the Netherlands," Andre Gingrich and Marcus Banks eds., *Neo-Nationalism in Europe and Beyond: Perspectives from Social Anthropology*, New York: Berghahn Books.

Sunstein, Cass R., 2001, *Republic.com*, Princeton University Press.（＝2003，石川幸憲訳『インターネットは民主主義の敵か』毎日新聞社.）

鈴木彩加，2011,「主婦たちのジェンダー･フリー･バックラッシュ――保守系雑誌記事の分析から」『ソシオロジ』171号.

――――, 2013,「草の根保守の男女共同参画反対運動――愛媛県におけるジェンダー･フリーをめぐる攻防」『年報人間科学』34号.

鈴木謙介，2005,「若者は『右傾化』しているか――左派の歪んだ写し姿」『世界』741号.

鈴木邦男，2013,「許せない民族差別と排外主義――朝鮮人・韓国人を排斥する偏狭なナショナリズムと対峙」『月刊 Times』37 巻 6 号.

――――・能川元一，2010,「いま排外主義の病理を撃つ――『在特会』よ、君らは卑怯者だ！」『週刊金曜日』823号.

Swidler, Ann, 1986, "Culture in Action: Symbols and Strategies," *American Sociological Review*, 51(2): 273-286.

Swyngedouw, Marc, 1998, "The Extreme Right in Belgium: Of a Non-Existent Front National and an Omnipresent Vlaams Blok," Hans-Georg Betz and Stefan Immerfall eds., *The New Politics of the Right: Neo-Populist Parties and Movements in Established Democracies,* New York: St. Martin's Press.

――――, 2001, "The Subjective Cognitive and Affective Map of Extreme Right Voters: Using Open-Ended Questions in Exit Polls," *Electoral Studies*, 20: 217-241.

Szymkowiak, Kenneth and Patricia G. Steinhoff, 1995, "Wrapping Up in Something Long: Intimidation and Violence by Right-Wing Groups in Postwar Japan," Tore Bjørgo ed., *Terror from the Extreme Right,* London: Frank Cass.

橘尚彦，2011,「『在特会』による京都朝鮮学校襲撃事件の背景と民族差別・排外主義を許さない闘い」『月刊社会民主』674 号.

Taggart, Paul, 1996, *The New Populism and the New Politics: New Protest Parties in Sweden in a Comparative Perspective,* Basingstoke: Macmillan.

高原基彰，2006,『不安型ナショナリズムの時代』洋泉社.
————，2008,「日本的脱工業化と若年労働力の流動化――『官僚制』と『個人化』の同時進行という視点から」『社会学評論』56 号 3 号.
————，2010,『現代日本の転機』日本放送出版協会.
————，2011,「『若者の右傾化』の背景と新しいナショナリズム論――戦後日本の左右対立と東アジア地政学の同時変容という視点から」小谷敏他編『若者の現在』日本図書センター.
高橋秀寿，1993,「今日におけるドイツ極右現象の歴史的位相」『思想』833 号.
————，1997,『再帰化する近代――ドイツ現代史試論』国際書院.
高橋正巳，1969,「敗戦後の日本における朝鮮人の犯罪」岩井弘融ほか編『日本の犯罪学 1 原因 I』東京大学出版会.
高橋進・石田徹編，2013,『ポピュリズム時代のデモクラシー――ヨーロッパからの考察』法律文化社.
高市早苗，2010, 「外国人参政権付与は亡国への道」『正論』457 号.
————・百地章，2000, 「立法府が犯す憲法違反の愚」『諸君！』32 巻 11 号.
高崎宗司，2002, 『「妄言」の原形――日本人の朝鮮観』木犀社.
髙谷幸，2007,「『外国人』に対する職務質問と治安政策」外国人人権法連絡会編『外国人・民族的マイノリティと人権白書』明石書店.
————・大曲由起子・樋口直人・鍛治致，2013a,「2005年国勢調査にみる在日外国人の仕事」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』35号.
————，2013b,「在日外国人女性の結婚・仕事・住居――2005年国勢調査データ分析」『文化共生学』12号.
————, 2013c,「2005年国勢調査に見る外国人の教育――外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』35号.
髙谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛治致・稲葉奈々子，2013a,「1995年国勢調査にみる在日外国人の仕事」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』36号.
————，2013b,「1995年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』36号.
————, 2013c,「1990年国勢調査にみる外国人の教育――外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』36号.
————，2014a,「1990年国勢調査にみる在日外国人の仕事」『文化共生学研究』13号.
————，2014b,「1990年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居」『文化共生学研究』13号.
————，2014c,「1980年国勢調査にみる在日外国人の仕事」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』37号.
————，2014d,「家族・ジェンダーからみる在日外国人――1980、85年国勢調査分析」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』37号.
————，2015a,「2010年国勢調査にみる在日外国人の仕事」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』38号.

————, 2015b,「2010年国勢調査にみる外国人の教育――外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』38号.
————, 2015c,「2010年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事、住居」『文化共生学研究』15号。
瀧川裕英，2002，「国民と民族の切断――外国人の参政権問題を巡って」『大阪市立大學法學雑誌』49 巻 1 号.
田久保忠衛編，2001，『「国家」を見失った日本人――外国人参政権問題の本質』小学館.
拓殖大学海外事情研究所，2002,『海外事情』50 巻 10 号.
田中愛治，1995,「『55 年体制』崩壊とシステムサポートの継続」『レヴァイアサン』17 号.
————，1996,「国民意識における『55 年体制』の変容と崩壊――政党編成崩壊とシステム・サポートの継続と変化」『年報政治学　55 年体制の崩壊』岩波書店.
田中宏，1990，『虚妄の国際国家・日本――アジアの視点から』風媒社.
————，1995，『新版 在日外国人――法の壁、心の溝』岩波書店.
————，2005，「『在日』の権利闘争の 50 年」藤原書店編集部編『歴史のなかの「在日」』藤原書店.
————，2010,「疎外の社会か、共生の社会か」『世界』803 号.
————・板垣竜太編，2007,『日韓新たな始まりのための 20 章』岩波書店.
田中恭子，2002,『国家と移民――東南アジア華人世界の変容』名古屋大学出版会.
谷富夫編，2002,『民族関係における結合と分離――社会的メカニズムを解明する』ミネルヴァ書房.
丹野清人，2013,『国籍の境界を考える――日本人、日系人、在日外国人を隔てる法と社会の壁』吉田書店.
Tarde, Gabriel, 1901, *L'Opinion et la Foule*, Alcan.（＝1964，稲葉三千男訳『世論と群集』未来社.）
Tarrow, Sidney, 1989, *Democracy and Disorder: Protest and Politics in Italy, 1965-1975,* Oxford: Clarendon Press.
————, 1998, *Power in Movement: Social Movements and Contentious Politics*, Second ed., Cambridge University Press.（＝2006，大畑裕嗣監訳『社会運動の力――集合行為の比較社会学』彩流社.）
Tateo, Luca, 2005, "The Italian Extreme Right On-line Network: An Exploratory Study Using an Integrated Social Network Analysis and Content Analysis Approach," *Journal of Computer-Mediated Communication,* 10(2): article 10.
俵義文，2001，「『つくる会』運動とは何だったか」『世界』696 号.
田崎拓真，2010,「『外国人追放』を絶叫して襲撃をくりかえす排外主義＝在特会を打ち砕こう――在特会との 1 年間の攻防をふり返って」『展望』7 号.
鄭大均，2010a，「なぜ左派は外国人参政権を要求するのか――『加害者国家・日本』の生き証人として利用される在日コリアン」『祖国と青年』376 号.
————，2010b，「民団の参政権運動は在日のためにならない」『正論』456 号.
————，2010c，「外国人参政権に反対のこれだけの理由」『中央公論』125 巻 1 号.
————，2010d，「韓国民団に問われていること」『中央公論』125 巻 4 号.

定住外国人の地方参政権をめざす市民の会編，1998,『定住外国人の地方参政権』かもがわ出版.

Teney, Celine et al., 2010, “Ethnic Voting in Brussels: Voting Patterns among Ethnic Minorities in Brussels (Belgium) during the 2006 Local Elections,” *Acta Politica*, 45: 273-297.

Terriff, Terry et al., 1999, *Security Studies Today,* London: Routledge.

Tillie, Jan, 2004, “Social Capital of Organisations and Their Members: Explaining the Political Integration of Immigrants in Amsterdam,” *Journal of Ethnic and Migration Studies,* 30(3): 529-542.

Tilly, Charles, 1978, *From Mobilization to Revolution*, Reading: Addison-Wesley.（＝1984，堀江湛監訳『政治変動論』芦書房.）

Togeby, Lise, 1999, “Migrants at the Polls: An Analysis of Immigrant and Refugee Participation in Dutch Local Elections,” *Journal of Ethnic and Migration Studies,* 25: 665-84.

————, 2004, “It Depends… How Organisational Participation Affects Political Participation and Social Trust Among Second-Generation Immigrants in Denmark,” *Journal of Ethnic and Migration Studies,* 30(3): 509-528.

東京大学医学部保健社会学科研究室，1992,『上野の町とイラン人――摩擦と共生』.

外村大，2013,「戦後日本の保守政治勢力と在日朝鮮人――単一民族社会志向の定着まで」『日本學』36 号.

————，2014,「日本人は『在日朝鮮人問題』をどう考えてきたか――現代日本における排外主義の歴史的前提」『日本學』38 号.

Tonry, Michael ed., 1997, *Ethnicity, Crime, and Immigration: Comparative and Cross-National Perspective,* Chicago: University of Chicago Press.

豊下楢彦，2012，『「尖閣問題」とは何か』岩波書店.

Traugott, Mark ed., 1995, *Repertoires and Cycles of Collective Action,* Durham: Duke University Press.

坪郷實，1993,「戦後ドイツの極右主義と共和党」『思想』833 号.

土倉莞爾，2007,「現代フランスの極右とポピュリズム」『関西大学法学論集』56 巻 5-6 号.

津田大介・安田浩一・鈴木邦男，2013,「安倍政権のネット戦略とネット右翼の実態」『創』43 巻 7 号.

津田大介・香山リカ・安田浩一ほか，2013,『安倍政権のネット戦略』創出版.

津田由美子，2004,「フラームスブロックとベルギー政党政治」『姫路法学』39-40 号.

辻大介，2008,「 インターネットにおける「右傾化」現象に関する実証研究 調査結果概要報告書」日本証券奨学財団研究調査助成金報告書.

————，2009,「調査データにみるネット右翼の実態」『Journalism』226 号.

————，2011,「『ネット右翼』的なるものの虚実――調査データからの実証的検討」小谷敏他編『若者の現在』日本図書センター.

『創』編集部，2010,「右派陣営の新潮流『在特会』拡大の背景」『創』40 巻 10 号.

Tsoukala, Anastassia, 2005, “Looking at Migrants as Enemies,” Didier Bigo and Elspeth Guild eds., *Controlling Frontiers: Free Movement into and within Europe,* Aldershot: Ashgate.

ツルネン・マルティ，2011,「帰化を条件にせず、地方参政権を付与すべき」『部落解放』644 号.

Tuathail, Gearóid Ó., 1996, *Critical Geopolitics*, Minneapolis: University of Minnesota Press.

Tung, Ko-Chi R., 1985, "Voting Rights for Alien Residents: Who Wants It?" *International Migration Review*, 19: 451-467.

Turner, Ralph H. and Lewis M. Killian, 1972, *Collective Behavior,* Second ed., Englewood Cliffs, NJ: Princeton-Hall.

上西秀明，2002,「ベルギーにおける三空間並存時代のアイデンティティと極右問題」『国際関係論集』2 号.

右翼問題研究会，2011,「平成 22 年の右翼運動を振り返って」『治安フォーラム』17 巻 2 号.

van de Donk, Wim, Brian D. Loader, Paul G. Nixon and Dieter Rucht, 2004, "Introduction: Social Movements and ICTs," Wim van de Donk, Brian D. Loader, Paul G. Nixon and Dieter Rucht eds., *Cyberprotest: New Media, Citizens and Social Movements,* London: Routledge.

Van der Brug, Wouter, 2003, "How the LPF Fuelled Discontent: Empirical Test of Explanations of LPF Support," *Acta Politica*, 38: 89-106.

――――― and Meindert Fennema, 2003, "Protest or Mainstream? How the European Anti-Immigrant Parties Developed into Two Separate Groups by 1999," *European Journal of Political Research,* 42: 55–76.

――――― and Meindert Fennema, 2007, "What Causes People to Vote for a Radical Right Party? A Review of Recent Works," *International Journal of Public Opinion Research*, 19: 474-487.

―――――, Meindert Fennema and Jan Tillie, 2000, "Anti-Immigrant Parties in Europe: Ideological or Protest Vote?" *European Journal of Political Research,* 37: 77–102.

―――――, Meindert Fennema and Jan Tillie, 2005, "Why Some Anti-Immigrant Parties Fail and Others Succeed: A Two-Step Model of Aggregate Electoral Support," *Comparative Political Studies,* 38: 537-73.

―――――― and Anthony Mughan, 2007, "Charisma, Leader Effects and Support for Right-Wing Populist Parties," *Party Politics,* 13(1): 29-51.

Van Dyke, Nella and Sarah H. Soule, 2002, "Structural Social Change and the Mobilizing Effect of Threat: Explaining Levels of Patriot and Militia Organizing in the United States," *Social Problems,* 49(4): 497-520.

Van Laer, Jeroen, 2010, "Activists Online and Offline: The Internet as an Information Channel for Protest Demonstrations," *Mobilization*, 15(3): 347-66.

――――― and Peter Van Aelst, 2010, "Internet and Social Movement Action Repertoires: Opportunities and Limitations," *Information, Communication & Society*, 13(8): 1146-71.

van Londen, Marieke, Karen Phalet and Louk Hagendoorn, 2007, "Civic Engagement and Voter Participation among Turkish and Moroccan Minorities in Rotterdam," *Journal of Ethnic and Migration Studies*, 33: 1201-26.

Van Spanje, Joost and Wouter Van der Brug, 2007, "The Party as Pariah: The Exclusion of Anti-Immigration Parties and Its Effect on Their Ideological Positions," *West European Politics,* 30(5): 1022-1040.

―――――, 2009, "Being Intolerant of the Intolerant: The Exclusion of Western European Anti-immigration Parties and Its Consequences for Party Choice," *Acta Politica*, 44(4): 353-384.

Varga, Mihai, 2008, “How Political Opportunities Strengthen the Far Right: Understanding the Rise in Far-Right Militancy in Russia,” *Europe-Asia Studies,* 60(4): 561-79.

Vasilevich, Hanna, 2013, “Majority as Minority: A Comparative Case of Autochthonous Slavs in Lithuania and Hungarians in Slovakia after the Second World War,” Julien Danero Iglesias, Nenad Stojanović and Sharon Weinblum eds., *New Nation-States and National Minorities*, Colchester: ECPR Press.

Veugelers, John W. P. and Roberto Chiarini, 2002, “The Far Right in France and Italy: Nativist Politics and Anti-Fascism,” Martin Schain, Aristide Zolberg and Patrick Hossay eds., *Shadows over Europe: The Development and Impact of the Extreme Right in Western Europe*, London: Palgrave.

Virchow, Fabian, 2007, “Performance, Emotion, and Ideology: On the Creation of ‘Collectives of Emotion’ and Worldview in the Contemporary German Far Right,” *Journal of Contemporary Ethnography,* 36(2): 147-64.

Vuori, Juha, 2011, “Religion Bites: Falungong, Securitization/desecuritization in the People’s Republic of China,” Thierry Balzacq ed., *Securitization Theory: How Security Problems Emerge and Dissolve,* London: Routledge.

和田春樹，2004，「『拉致された』国論を脱して――日朝国交正常化と東北アジアの平和」『世界』722 号.

Wæver, Ole, 1995, “Securitization and Desecuritization,” Ronnie D. Lipschutz ed., *On Security*, New York: Columbia University Press.

――――― et al., 1993, *Identity, Migration and the New Security Agenda in Europe*, London: Pinter.

若宮啓文，2006，『和解とナショナリズム――新版・戦後保守のアジア観』朝日新聞社.

若槻泰雄，1991，『戦後引揚げの記録』時事通信社.

Walsh, Edward, 1983, “Resource Mobilization and Citizen Protest in Communities around Three Mile Island,” *Social Problems*, 29(1): 1-21.

王恩美，2008，『東アジア現代史のなかの韓国華僑――冷戦体制と「祖国」意識』三元社.

渡戸一郎編，1995，『自治体政策の展開と NGO』明石書店.

Waters, Tony, 1999, *Crime & Immigrant Youth,* Thousand Oaks: Sage.

Waters, William, 2010, “Migration and Security,” J. Peter Burgess ed., *The Routledge Handbook of New Security Studies*, London: Routledge.

Weatherby, Georgie Ann and Brian Scoggins, 2005, “A Content Analysis of Persuasion Techniques Used on White Supremacist Websites,” *Journal of Hate Studies,* 4: 9-31.

Weeber, Stan and Daniel G. Rodeheaver, 2003, “Militias at the Millennium: A Test of Smelser’s Theory of Collective Behavior,” *Sociological Quarterly,* 44(2): 181-204.

――――, 2004, *Militias in the New Millennium: A Test of Smelser’s Theory of Collective Behavior,* Dallas: University Press of America.

Weerdt, Yves De et al., 2007, “Perceived Socio-Economic Change and Right-Wing Extremism: Results of the SIREN-Survey among European Workers,” Jörg Flecker ed., *Changing Working Life and the Appeal of the Extreme Right*, Aldershot: Ashgate.

Wellman, Barry, 1979, “The Community Question,” *American Journal of Sociology,* 99: 1201-1231.

―――― and Milena Gulia, 1999, “Net-Surfers Don’t Ride Alone: Virtual Communities as

Communities," Barry Wellman ed., *Networks in the Global Village,* Boulder: Westview Press.
Wender, Melissa L., 2005, *Lamentation as History: Narratives by Koreans in Japan, 1965-2000,* Stanford: Stanford University Press.
Widfeldt, Anders, 2004, "The Diversified Approach: Swedish Responses to the Extreme Right," Roger Eatwell and Cas Mudde eds., *Western Democracies and the New Extreme Right Challenge,* London: Routledge.
Willems, Helmut, 1995, "Development, Patterns and Causes of Violence against Foreigners in Germany: Social and Biographical Characteristics of Perpetrators and the Process of Escalation," Tore Bjørgo ed., *Terror from the Extreme Right,* London: Frank Cass.
Williams, Bénédicte, 2013, "Right-wing Extremism and the Integration of the European Union: Electoral Strategy Trumps Political Ideology," Andrea Mammone, Emmanuel Godin and Brian Jenkins eds., *Varieties of Right-wing Extremism in Europe,* London: Routledge.
Wilson, Thomas M. and Hastings Donnan eds, 1998, *Border Identities: Nation and State at International Frontiers,* Cambridge: Cambridge University Press.
Wiltfang, Gregory L. and Doug McAdam, 1991, "The Costs and Risks of Social Activism: A Study of Sanctuary Movement Activism," *Social Forces,* 69(4): 987-1010.
Wintrobe, Ronald, 2006, *Rational Extremism: The Political Economy of Radicalism*, Cambridge: Cambridge University Press.
八木秀次，1999,「外国人参政権という人気取り政治の軽率」『正論』328 号.
————，2015,「韓国・中国批判ができなくなる日」『正論』517 号.
八木康洋，2011,「支那と菅政権へ向けられた怒りの声を国民運動に」『伝統と革新』3 号.
————，2012,「朝鮮学校による京都市勧進橋児童公園不法占拠事件と有志による抗議活動」『国体文化』1060 号.
屋嘉比収，2005,「顕現する『国境』――沖縄与那国島の密貿易終息の背景」岩崎稔・大川正彦・中野敏男・李孝徳編『継続する植民地主義――ジェンダー／民族／人種／階級』青弓社.
山田健太，2012,「『在特会』メンバー等による朝鮮学校の授業妨害訴訟・コメント」『国際人権』23 号.
山口智美, 2013,「フェミニズムの視点からみた行動保守運動と『慰安婦』問題」『Journalism』282 号.
————・斉藤正美・荻上チキ，2012,『社会運動の戸惑い――フェミニズムの「失われた時代」と草の根保守運動』勁草書房.
Yamaguchi, Tomomi, 2013, "Xenophobia in Action: Ultranationalism, Hate Speech and the Internet in Japan," *Radical History Review*, 117: 98-118.
山口定・高橋進編，1998,『ヨーロッパ新右翼』朝日新聞社.
山口祐二郎，2013,『奴らを通すな！』ころから.
山本英弘・西城戸誠, 2004,「イベント分析の展開――政治的機会構造論との関連を中心に」曽良中清司ほか編『社会運動という公共空間――理論と方法のフロンティア』成文堂.
山本皓一，2010,『国境の島が危ない！』飛鳥新社.
山本優美子，2015,『女性が守る日本の誇り――「慰安婦問題」の真実を訴えるなでしこ活

動録』青林堂.
山野車輪，2005,『マンガ嫌韓流』晋遊舎.
————，2006a,『マンガ嫌韓流 2』晋遊舎.
————，2006b,「山野車輪ロングインタビュー」『マンガ嫌韓流公式ガイドブック』晋遊舎.
————，2007,『マンガ嫌韓流 3』晋遊舎.
————，2009,『マンガ嫌韓流 4』晋遊舎.
————，2010,『外国人参政権は、要らない』晋遊舎.
————・安田浩一，2014,「嫌韓とヘイトスピーチ」『G2』15 号.
山戸ときお，2012,「平成 23 年の右翼運動を振り返って」『治安フォーラム』18 巻 2 号.
梁泰昊，1985,「事実としての『在日』——姜尚中氏への疑問」『季刊三千里』43 号.
————，1986,「共存・共生・共感」『季刊三千里』45 号.
安田浩一，2010,「在特会の正体」『G2』6 号.
————，2011a,「ネット右翼にたいする宣戦布告」『G2』7 号.
————，2011b,「ヘイトスピーチの現場から」『現代排外主義と差別表現規制——人種差別禁止法とヘイトクライム法の検討』第二東京弁護士会人権擁護委員会.
————，2011c,「排外主義に走る若者たち」外国人人権法連絡会編『外国人・民族的マイノリティ人権白書 2011』外国人人権法連絡会.
————，2012a,『ネットと愛国——在特会の「闇」を追いかけて』講談社.
————，2012b,「ネチズム（ネット･ファシズム）は拡散する」『G2』10 号.
————，2012c,「在特会は、『いまの日本の気分』をわかりやすく表したものなんです」『Voice』419 号.
————，2012d,「沸騰するナショナリズム」『出版ニュース』2288 号.
————，2012e,「『在特会』ロート製薬強要逮捕事件の背後事情」『創』466 号.
————，2013a,「ネット右翼のリアル」安田浩一・山本一郎・中川淳一郎『ネット右翼の矛盾——憂国が招く「亡国」』宝島社.
————，2013b,「『朝鮮人を殺せ！』新大久保"ヘイトスピーチ団体”って何者？」『週刊文春』4 月 18 日号.
————，2013c,「日本を覆う排外主義の『気分』」『Migrants Network』156 号.
————，2013d,「遂に逮捕者も出た嫌韓デモをめぐる一触即発」『創』477 号.
————，2013e,「なぜ、在特会の『闇』を追いかけたのか」『K-magazine』29 号.
————，2013f,「ヘイトスピーチの『在特会』を解剖する」『メディア展望』624 号.
————，2015,「在特会の深い闇——桜井誠『会長引退』と永田町人脈の真相」『月刊宝島』43 巻 1 号.
————・山本一郎・中川淳一郎，2013,『ネット右翼の矛盾——憂国が招く「亡国」』宝島社.
————・岩田温・古谷経衡・森鷹久，2013,『ヘイトスピーチとネット右翼——先鋭化する在特会』オークラ出版.
李隆，1995,「在日参政権と『二つの日本』」『諸君！』27 巻 9 号.
李信恵，2015a,『＃鶴橋安寧——アンチ・ヘイト・クロニクル』影書房.

————，2015b，「反ヘイトスピーチ裁判の原告として」『社会運動』416 号.
————・安田浩一，2014，「人間と社会を傷つけるヘイトスピーチ」『世界』862 号.
善福浩朗，2010，「平成 21 年の右翼運動を振り返って」『治安フォーラム』16 巻 2 号.
吉見俊哉，2003，『カルチュラル・ターン、文化の政治学へ』人文書院.
吉野耕作，1997，『文化ナショナリズムの社会学——現代日本のアイデンティティの行方』名古屋大学出版会.
吉武信彦，2005，「デンマークにおける新しい右翼——デンマーク国民党を事例として」『地域政策研究』8 巻 2 号.
吉留路樹，1985，『人権か指紋か——外国人登録制度の狙いとホンネを衝く』市民出版社.
尹健次，1992，『「在日」を生きるとは』岩波書店.
在日朝鮮人の人権を守る会，1977，『在日朝鮮人の基本的人権』二月社.
在日韓国青年同盟中央本部編，1970，『在日韓国人の歴史と現実』洋々社.
在日コリアンの日本国籍取得権確立協議会編，2006，『在日コリアンに権利としての日本国籍を』明石書店.
在日本大韓民国居留民団中央本部，1982，『差別白書第 6 集 整地作業を確実に』.
Zaslobe, Andrej, 2004, “Closing the Door? The Ideology and Impact of Radical Right Populism on Immigration Policy in Austria and Italy,” *Journal of Political Ideologies*, 9(1): 99-118.
Zdravomyslova, Elena, 1996, “Opportunities and Framing in the Transition to Democracy: The Case of Russia,” Doug McAdam, John D. McCarthy and Mayer N. Zald eds., *Comparative Perspectives on Social Movements: Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framings*, Cambridge: Cambridge University Press.
Zhirkov, Kirill, 2014, “Nativist But Not Alienated: A Comparative perspective on the Radical Right Vote in Western Europe,” *Party Politics*, 20(2): 286-296.